

**民間企業等の退職者が地域で活躍
するための学習システムの開発
報告書**

平成19年度 文部科学省委託
生涯学習分野におけるNPO支援事業

平成20年3月

特定非営利活動法人コミュニティ・コーディネーターズ・タンク

目 次

1. はじめに
2. 第1章 学習システムの概要・・・・・・・・・・・・・・・・ p.3
3. 第2章 各プログラムの詳細・・・・・・・・・・・・・・・・ p.9
4. 第3章 システムの検証・・・・・・・・・・・・・・・・ p.38
5. 第4章 学習システムの提案・・・・・・・・・・・・・・・・ p.43
6. 資料編・・・・・・・・・・・・・・・・ p.46

はじめに

松戸市の中間支援組織まつど市民活動サポートセンターでは、平成16年より、地域デビュー講座「DeBanda! 出番だ!」を毎年開催し、今年度で第4回目を迎えている。特に、初回の「DeBanda! 出番だ!」は、内閣府市民活動モデル調査の一環として、シニアが地域の課題に取り組んでいくための効果的な仕掛けと場の効果を検証するために実施されたプログラムである。それ以降、まつど市民活動サポートセンターでは、このプログラムの成果・効果を毎年検証しつつ、継続して開催してきた。

また、市民(特に中高年)を対象に地域への関心づくりを意識した交流サロン「車座 DaBanda」、地域のネットワークへの参加を促す「NPO・市民活動見本市」をそれぞれ過去4年間実施してきた。

これまでの実績と課題を振り返ると、地域への関心を引き出し、NPO等の団体へ参加する市民を輩出してきたが、一方で、「DeBanda! 出番だ!」など3つの事業は、それぞれ個別のプログラムとして運営されてきた。また、対象を中高年の市民としてきたが、もう少し対象者像を明確にし、その人たちのニーズに適ったプログラムに改編する必要を認識している。

加えて、松戸市内では、松戸市が市民向けの生涯学習講座、聖徳大学が社会人向けの教育プログラム、松戸青年会議所が社会力育成やコミュニティ・ビジネス起業などの市民力を高めるプログラムを実施しているが、ここでも個別の動きに止まってきた。

そこで、CoCoTでは、松戸市民の多くが勤労者であることを再認識し、この人たちのパワー(職業的な専門性も含めて)を本人たちのニーズに適う形で地域へどう生かすかを問題意識としたプログラムを検討することにした。

その結果、民間企業等の退職者を対象として定め、現行の「車座 DaBanda」、「DeBanda! 出番だ!」、「NPO・市民活動見本市」を統合システムとして改編し、社会経験豊かな民間企業等の退職者が、自分の持っている資源を最大限に活かすことのできる場や仲間を得、地域で活躍することを目的としたまちづくりの担い手(コミュニティワーカー)を育成する学習システムとする。

あわせて、中間支援団体として CoCoT は、中高年の地域活動拠点を調査研究テーマとする聖徳大学生涯学習研究所、地域に密着した企業者の集まりである異業種懇談会など教育機関や NPO や地域団体、企業や行政と連携し、民間企業等の退職者が地域で活躍できる場を提供してもらおう。

CoCoT の学習システムで学んだことを実践する場を得ることで、民間企業等の退職者がコミュニティ・ワーカーへ成長することを狙う。民間企業等の退職者がコミュニティ・ワーカーへ成長し継続した活躍できる体制を作り上げ、企業と地域をつなぎ、地域で学び地域で育つ＝地域の教育力の再生を目指す。

第1章 学習システムの概要

この章では、昨年度まで実施していた個々の事業に対して、どのような課題があったか、それをどう解決するために学習システムの構築を図ったかについて述べた後、本システムのスキームを説明する。(今回報告するシステム全体は、「学習システム」あるいは「システム」と表し、そのシステムに組み込まれている個々の事業を「プログラム」と表す)

1. 既存プログラムの概要

既存プログラムは、毎年、少しずつ形態を変えているが大枠の趣旨、内容は変えていない。ここでは2006年度実施してきたおおまかな企画概要を挙げる。

(1) 地域デビュー講座「DeBanda! 出番だ!」(2004年度から実施)

趣旨：地域の活性化や課題解決を、自分たちの手で取り組んでいく市民を育成し、松戸の地域力(自己決定力)育成を目指す。

対象：地域の課題解決/活性化に関心がある市民。定年退職後を意識している市民。

日程と内容：全4回 時間：9:30～12:30(3時間) ※日程は2006年度のもの

9月19日(火)～10月17日(火)

(2) 車座 DeBanda (2006年度から実施)

趣旨：地域に関心を持ち始めた人が集まるサロン。個人や団体の新しい活動の第一歩、あるいは新しい関係を生み出すきっかけの場。

対象：退職者等をきっかけに地域に関心を持ち始めるがやりたいことが見つからない市民

日程と内容：毎月第4水曜日 時間：10:00～12:00

ファシリテーターが参加者から話題を拾い出し、フリートークで語り合う

(3) NPO・市民活動見本市(2003年度から実施)

趣旨：市民と団体の交流を促し、NPO・市民活動団体と市民の出会いの場を提供することで、幅広い市民が市民活動への参加し、地域課題を解決するという成果を引き出し、NPO・市民活動の更なる活性化につながるという好循環を導き出すための交流の促進。地域の多種多様な主体と、NPO・市民活動団体のネットワーク形成のきっかけとする。同じテーマをもつ団体間の連携のきっかけを作る。

対象：市民活動を行っている団体、市民活動に興味のある市民。

日程と内容：3月第1土曜日 時間：10:00～17:00

実行委員会方式による運営。出展団体からの企画提案で各会場、ブースで、イベント・催しもの、講演会、相談会などを開催する。応募団体と実行委員会で連携して実施する。

実行委員会は、見本市に関わる団体からの有志から構成されている。

2. 学習システム再構築のポイント

昨年度までのプログラムに新しい機能を組み込む形で学習システムを構築した。ポイントとし

て「ボランティアや地域活動」に対して、どのような関係にある市民を、本システムの対象とするかを検討した。またどんな市民がどのようなステップを踏むことで、まちの担い手（コミュニティワーカー）までたどりつくか、そして、その担い手が実際に活躍する受け皿づくりを考えた。

（1）対象の明確化

市民と「ボランティア活動・地域活動」との関係性を「A 地域に関心を持ち始めた市民」、「B 活動に関心を持ち始めた市民」、「C 活動へ参加する市民」、「D 活動団体を設立する市民」、「E 活動団体を運営する市民」の5類型を想定した。

民間企業の退職（予定）者の姿として、社会の一線で働いて、ボランティアや地域活動というものにあまり接点がない世界で過ごしてきた人々が、退職というきっかけにより、自分に与えられた時間を趣味以外の生きがいに見出そうとした時、日常自分が身を置く場＝「地域」に対して関心をもつ場合が、少なくない。東京都の50代を調査した「団塊世代の活用についての調査報告書」（2004年）によると、男女ともに約4割の人が、5年後にはボランティアやNPO活動に参加したいと回答している。今回は、そういった地域に関心を持ち始めた企業退職者（予定者を含む）を対象とした。

（2）確実なステップ

前節で対象とした、「地域に関心を持ち始めた市民」を、確実なステップで「活動に関心を持つ市民」「活動に参加する市民」に引き上げ、最終的には、コミュニティ・ワーカー、つまり「活動団体を設立する市民」、「活動団体を運営する市民」として、地域で活躍するまでを支援するシステムとする。

（3）コミュニティ・ワーカーの受け皿づくり

ステップごとに生まれる人材を確保し、次のステップにいざなうための受け皿づくりを行う。受け皿には、多様な立場や段階の人たちが集まり、更なる人の循環、交流と相互作用を生む、人材育成の機能を持つ受け皿づくりを行う。

3. 既存プログラムの課題と変更点

思いを形にする、組織作りや仲間作りを促す地域デビュー連続講座「DeBanda! 出番だ!」、交流サロンの「車座 DeBanda」、自らの活動を発表する場や、仲間作りのきっかけの「NPO・市民活動見本市」を既存プログラムとして実施し、それぞれ成果をあげてきた。前節のポイントをふまえ、それぞれのプログラムの現状の課題と本システムへ発展させるための方策を述べる。

①DeBanda 講座へのステップづくり

われわれが地域デビュー講座と銘打っている「DeBanda! 出番だ!」は、講座生が実質的に活動を作り出すまでをサポートするのが特長であり、その機能がこの講座の要といってよい。しかし、この講座への参加は、活動に対していくらかの意欲を抱いていないと、4回連続講座を全うすることはもちろん、参加すること自体が難しい。したがって、「地域」に関心を寄せた民間

企業の退職（予定）者が、ボランティアや地域活動というものの存在を知り、地域課題解決に向けたそれらの活動が自らの人生を豊かにし、地域を豊かにするというイメージを描くことができる、門戸の広い講演会を入門編として設定した。

②DeBanda 講座の強化

これからの自分の仕事や地位に誇りを持って仕事中心に生きてきた企業人は、退職後も、企業での価値観や地位を捨て去ることは難しい。さらに、そこに彼らの社会的な価値がある場合も多い。既存の組織や場に組み込むことよりも、既存の組織や団体のパートナーとして位置づけ、ゆるやかな仲間作りと立ち上げ支援に力点を置く。

また、講座の最終回で、NPO、市民活動団体、町会・自治会、地元商店会、企業などを呼んでプレゼンテーションをし、マッチングを行う。既存のグループのメンバーになったり、協働するパートナーとなったり、企画者となったりなど、様々な選択肢を用意する。

③NPO・市民活動見本市の役割の明確化

市民と市民活動団体との接点をつくり、交流を生み出し、更なる市民活動への発展を促す事業である見本市。今回は、本システムの各ステップで活動に興味を持ち始め、活動を始めた人にとって、このプログラムでの受け皿はどこにあるのか明確にする。

【想定される参加の形態】

- 参加団体として、実験企画を出展、既存団体のパートナーとして協力する
- 見本市実行委員会に加わり、市民参画運営スタイルを学ぶ
- 個人ボランティアとして参加

④フォローアップ体制づくり

一度参加した市民へのフォローアップ体制は、サロンの「車座 DeBanda」、「DeBanda！ 出番だ！」の同窓会とした。これらは、活動に興味を持ち始めた市民が定期的集まって交流することで、活動への意欲を減退させない、さらに活動の先輩の話を聞くことで活動自体への参加を促したり、テーマへの新たな興味を引き出したりするような場とする。他にも見本市実行委員会への参加も促す。

⑤「車座 DeBanda」の改善

サロンへ足を運びたくなる仕組みとして毎回テーマを決める。事前にミニニーズ調査を組み込んで、そのテーマ設定へ反映させ魅力あるサロン形成へとつなげる。また今まで平日の午前中としていたが、それでは退職後を見据える 40 代、50 代の参加が見込めないため、時間とそれに伴い場所の設定を見直した。

以上、昨年までの車座 DeBanda からの改善点をまとめた。

【改善点】

- 事前調査をしてテーマを設定し、話題提供者を中心に話を進める。
- 平日の夜間で、交通の便がいい駅の近くの公共施設を利用する。

⑥事前ミニニーズ調査

市職員等に協力してもらい、定年後にどのような期待や夢を持っているか、簡単なニーズ調査を行い、サロンのテーマ設定の材料とした。

⑦「DeBanda! 出番だ!」 同窓会

DeBanda 講座では、講座終了後に緩やかなネットワークを作ることも目的のひとつになっていた。しかし今までは仕掛けはしたものの、講座生の自発性に任せていたことから、講座生の中で同窓会の認識が薄いままで終わっていた。これを明確化し、定期的に設けるようにする。

⑧地域との連携によるコミュニティ・ワーカーの受け皿づくり

この事業は、退職者の社会的関わりと意欲をその場かぎりのものにしないで、彼らが地域社会やそこに住む人々と継続して関わり地域の構成員となる導入のプログラムと、自身が持つ社会的資源を活かし、地域の教育力の再生支援をつなぐ創造的循環型事業として創り上げられている。

地域社会の支え手（コミュニティ・ワーカー）として退職者が新たなステージを得るために、中高年の地域活動拠点を調査研究テーマとする聖徳大学生涯学習研究所などの研究教育機関、地域に密着した企業者の集まりである異業種懇談会などのNPOや地域団体、企業や行政と連携し、民間企業等の退職者が地域で活躍できる場を提供してもらうことに取り組んだ。

4. システムの概要

(1) 目的

地域に目を向け始めた企業退職(予定)者、すなわち「地域に関心を持ち始めた市民」が「活動へ参加する市民」あるいは「活動団体を設立する市民」になり、まちづくりの担い手（コミュニティワーカー）として地域で活躍するまでを支援する学習システムとする。

(2) 3つのステップとサポート体制

まず、流れを大きく3つのステップに分け、その事前準備としてのミニニーズ調査と、フォローアップ体制を設定した。

Step 0 ミニ事前ニーズ調査「定年後の人生設計についてのアンケート」

Step 1 地域や活動に関心を持つきっかけづくり、「はじめての市民活動」

Step 2 仲間づくり・組織作りー地域デビュー講座「DeBanda!! 出番だ!」

Step 3 地域デビューと地域のネットワークに参加ー「NPO・市民活動見本市」

Support フォローアップ体制 「車座 DeBanda」「DeBanda! 出番だ!」の同窓会

(3) Step 0 事前ミニニーズ調査

「定年後の人生設計についてのアンケート」

日時：平成 19 年 9 月 5 日（水） 13：30～15：30

内容：協働のまちづくり講演会 「ここがツボ！協働事業&市民活動」松戸市協働推進課主催講演会にて、アンケートを配布・その場で回収。データ分析後、車座 DeBanda のテーマ設定に反映させる。

(4) Step 1 地域や活動に関心を持つきっかけづくり

シンポジウム「はじめての市民活動～粋な松戸で腕まくり！～」

日時：平成 19 年 9 月 24 日（月） 13:30～16:30

内容：講演「マザーテレサに学ぶ地域デビュー」講師：枝見太郎氏（富士福祉事業団理事長）

パネルディスカッション「粋な松戸はこう創る！」パネリスト 4 名（市民活動団体）

基調講演で、地域活動やボランティアについて考える基盤づくりをする。後半はパネリストの活動のきっかけや意義を通して、参加者の一歩を踏み出す後押しをする。

(5) Step 2 仲間づくり・組織作りー

地域デビュー講座「DeBanda!! 出番だ！」 日時：11/ 5（月）～12/ 3（月）

内容：参加者のやりたいことを引き出し、実質的な立ち上げ支援までを、連続全 4 回（3 時間×4 回）講座でねらう。2 回目は 2 コマ。

(6) Step 3 地域デビューと地域のネットワークに参加

「NPO・市民活動見本市」気づきと出会い！この体験が明日につながる！

日時：平成 20 年 3 月 1 日（土） 10:00～17:00、3 月 2 日（日） 11:00～16:00

※二日目は、実行委員会と聖徳大学生涯学習研究所の共催

内容：実行委員会形式。当日はパネル展示、パフォーマンス、相談会などの団体企画と実行委員会企画のシンポジウムなど。二日目は、聖徳大学生涯学習研究所と連携して、第 2 日目に聖徳大学社会貢献センターで開催。2 箇所の会場で、市民参加のまちづくりとテーマ型の活動発表会という設定で、両者が連携することにより、より多くの市民のニーズに合った学びと参加のきっかけづくりを設定する。

(7) Support フォローアップ体制

①テーマ型交流サロン「車座 DeBanda」

日時：毎月第 4 水曜日 19:00～20:30 場所：ゆうまつど（松戸市 女性センター）

内容：情報を収集発信し、交流することを目的としたテーマ型サロンの開催。各ステップで興味を持ち始めた人が、次のステップのつなぎとして、そこに行けば常に、地域活動や地域活動をしている人々に出会える、触れ合える、情報交換できる場とする。

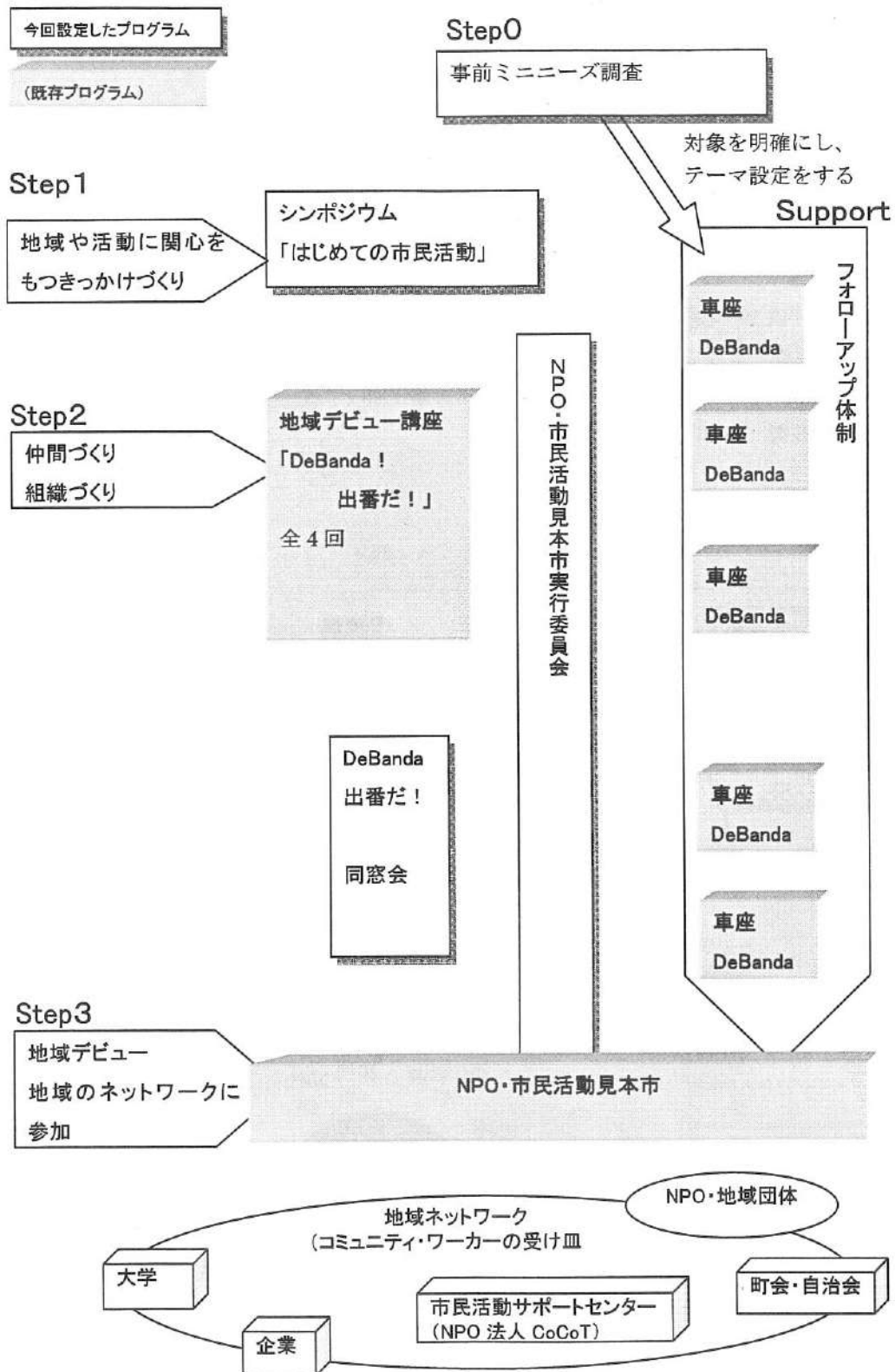
②「DeBanda!! 出番だ！」同窓会

日時：1 月 26 日 サポートセンターの他事業のシンポジウム交流会で同窓会を行う。

3 月 01 日 サポートセンターの見本市にて

内容：DeBanda 同期生同士の情報交換の場。

図1 <民間企業等の退職者が地域で活躍するための学習システム開発のスキーム>



第2章 各プログラムの詳細

この章では、学習システムを構成する各プログラムについて詳細を記す

1. ミニ事前ニーズ調査「定年後の人生設計についてのアンケート」

(1) ねらい

定年後にどのような期待や夢を持っているか簡単なニーズ調査を行い、サロン（車座 DeBanda）のテーマ設定の材料とする。

・調査方法

日時：平成 19 年 9 月 5 日（水） 13：30～15：30

内容：協働のまちづくり講演会 「ここがツボ！協働事業&市民活動」松戸市協働推進課主催講演会にて、アンケートを配布・その場で回収する。

有効回収数：85 票

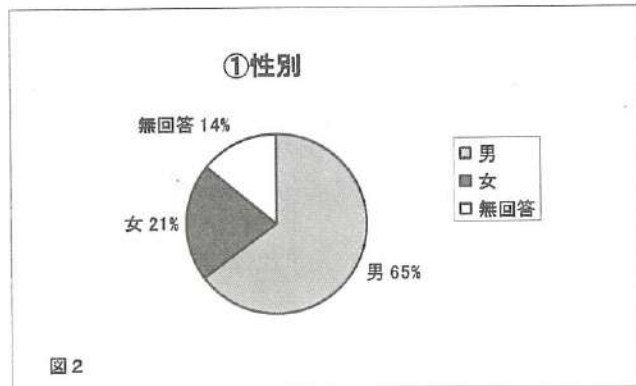
(2) アンケート結果

a. 本人属性

①性別

項目	回答数
男	55
女	18
無回答	12
計	85

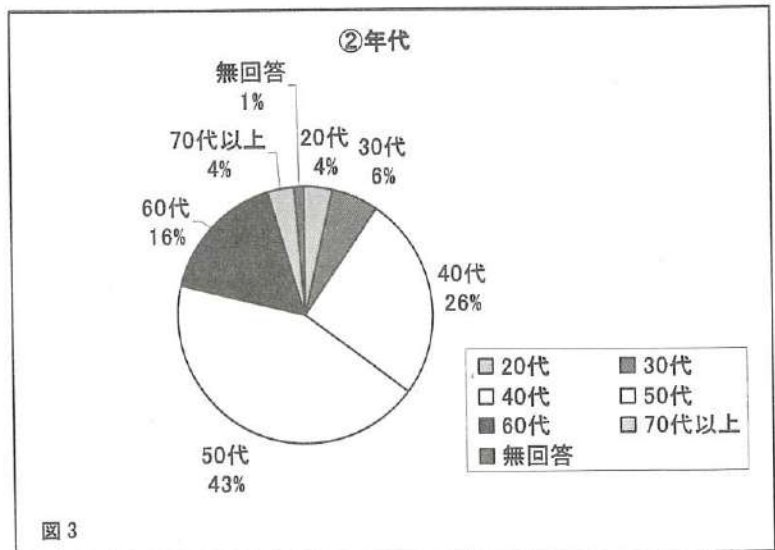
(表 1)



②年代

項目	回答数
10 代	0
20 代	3
30 代	5
40 代	22
50 代	37
60 代	14
70 代以上	3
無回答	1
計	85

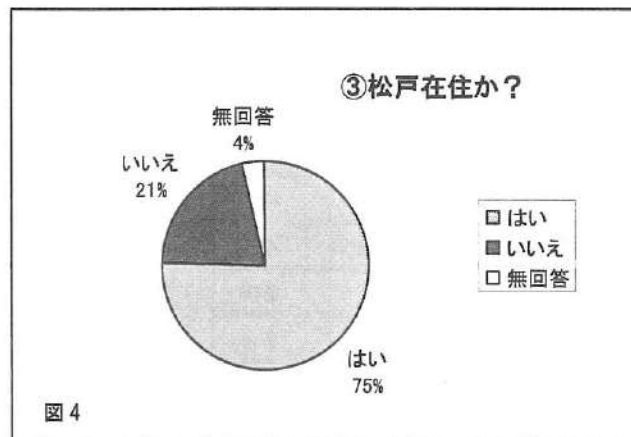
(表 2)



③松戸在住か？

項目	回答数
はい	64
いいえ	18
無回答	3
計	85

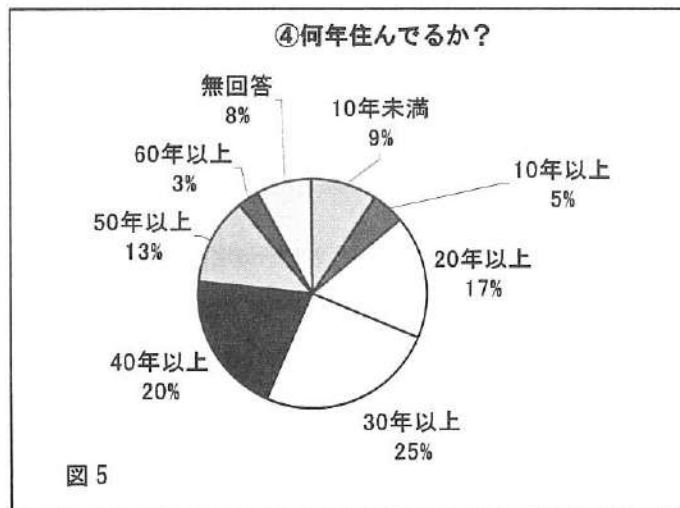
(表 3)



④松戸在住暦（松戸在住で「はい」と答えた人）

項目	回答数
10年未満	6
10年以上	3
20年以上	11
30年以上	16
40年以上	13
50年以上	8
60年以上	2
無回答	5
計	64

(表 4)



1. 退職後もっともしたいこと（回答は1つ）

項目	回答数
再就職を考える	10
家でのもんびりしたい	12
ボランティア活動をしたい	12
趣味活動を充実させたい	43
しばらく今の活動を続ける	4
その他	2
無回答	2
計	85

(表5) 40代、50代のみ集計

項目	回答数
再就職を考える	10
家でのもんびりしたい	9
ボランティア活動をしたい	3
趣味活動を充実させたい	31
しばらく今の活動を続ける	3
その他	2
無回答	0
計	58

(表6)

2. 退職後や余暇にボランティアや地域活動をしてみたいか？

項目	回答数
はい	55
いいえ	22
その他	2
無回答	6
計	85

(表7)

(40-50代集計)

項目	回答数
はい	37
いいえ	18
その他	0
無回答	0
計	55

(表8)

1. 退職後もっともしたいこと

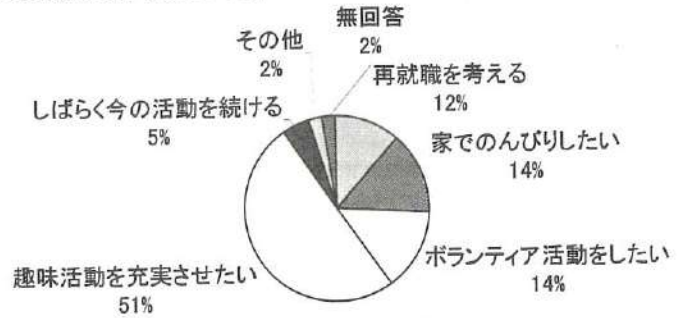


図6

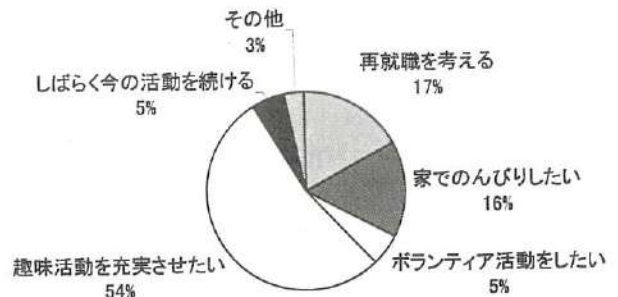


図7

2. 退職後や余暇にボランティアや地域活動をしてみたいか？

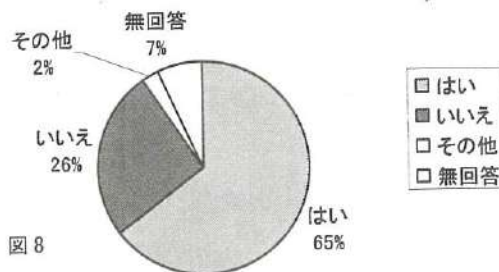


図8

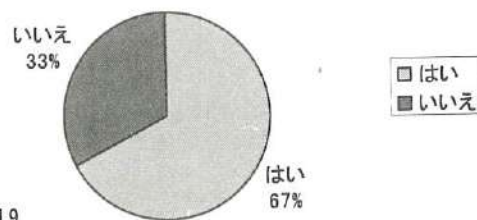


図9

3. 興味のあるテーマや活動は何か？（複数可）

項目	回答数
災害への準備・災害時の支援	24
河川や森の環境を守る活動	24
防犯活動などの安心・安全な地域づくり	22
町会・自治会などの活動	21
高齢者の福祉・生活の支援	19
子どもの居場所作り	18
育児・子育ての支援	16
歴史・文化遺産の保存・伝承	14
商店街の活性化や地域イベントの支援	13
スポーツ指導	12
障害者の福祉・生活の支援	8
ITスキルの普及	4
外国人の支援・異文化交流	3
ホームレスの支援	0
無回答	7
その他	7
計	198

(表 9)

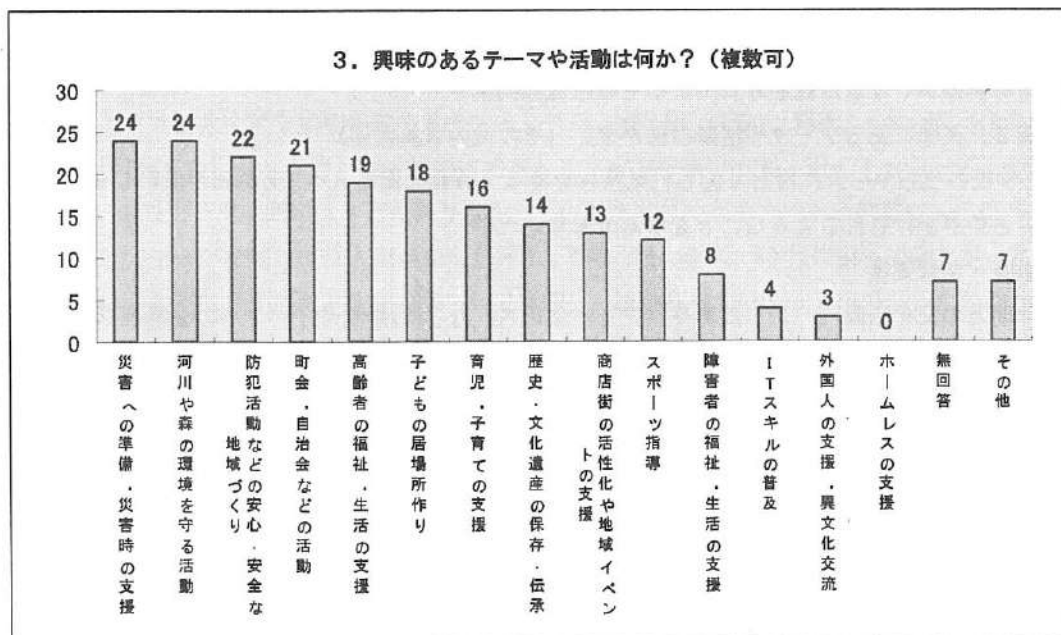
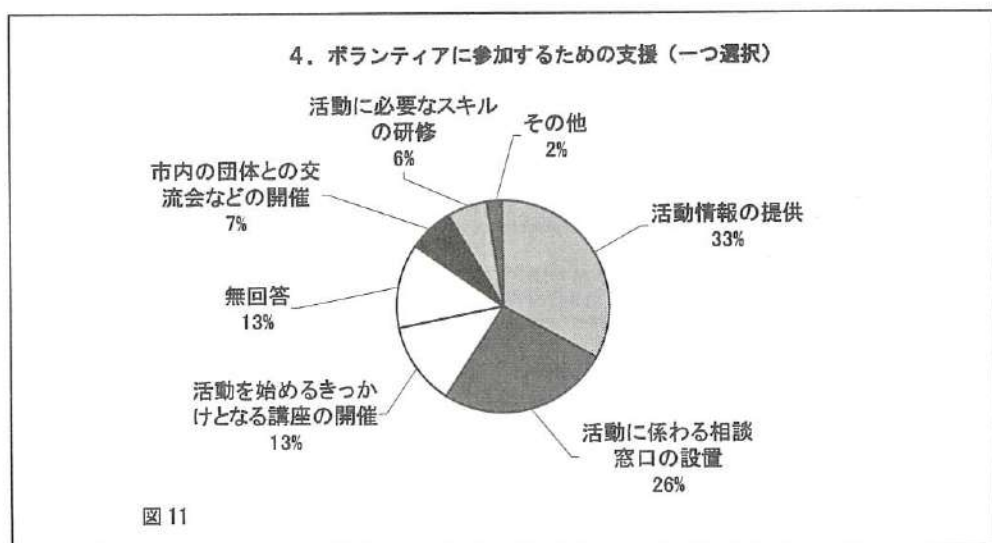


図 10

4. ボランティアに参加するための支援

項目	回答数
活動情報の提供	28
活動に係わる相談窓口の設置	22
活動を始めるきっかけとなる講座の開催	11
無回答	11
市内の団体との交流会などの開催	6
活動に必要なスキルの研修	5
その他	2
計	85

(表 10)



<自由記述> ※自由記述されているものは全部掲載

■問3. 興味のあるテーマや活動は何か? (その他の自由記述)

- ・小学校のうちから人に対して優しい気持ちを持って障害のある人へ「何かお手伝いしましょうか」と声かけられるようなことを学んでもらいたい
- ・教育・学習支援
- ・仲間との文化活動 (バンド演奏やパフォーマンス) など、お祭りやイベントの企画実践

■問4. ボランティアに参加するための支援

- ・印刷物作成に費用がかかるので、安価で使用できる印刷機をボランティア活動センターなどに設置してほしい。
- ・活動の広報・広告のサポート
- ・隣の市川市のような納めた住民税の1%が市民活動に自由に使え、その使う先も住民自らが決定することができる制度、条例を早急に設定すべきである。

(3) アンケート結果からわかったこと

回答者の属性は、市主催の講演会であったことから市職員の参加が多く見受けられ、年代は40代～50代69%、男性が65%という結果になった。退職後が漠然とではあるが、視野に入ってきていると思われる年代である。

このアンケートでは、

- ①退職後や余暇に何をしたいか、
- ②ボランティアや地域活動のどんなテーマに関心があるか、
- ③ボランティアや地域活動に参加するための支援

以上の3点を聞くことに焦点を絞った。

①時間的余裕から生まれる活動への意欲

退職後や余暇に何をしたいか、という質問には、「趣味活動の充実」が一番高く半分以上を占めている。40,50代に限って集計したところ、「ボランティア活動」の率が大幅に減り、「趣味活動の充実」が若干増えている。回答を一つと絞ったことで、40,50代は、現状では仕事や家庭でも中堅として忙しく、余暇や退職後は趣味やのんびり過ごすことに思いを馳せている姿が浮かび上がる。しかし、実際ののんびり過ごす時間が現実的に存在する60年代以降では、余暇の過ごし方としてボランティア活動が選択肢のひとつとして入ってきていることもわかった。

②潜在的に存在する地域や活動への興味

質問1のもっともしたいこと、という質問では、地域活動やボランティア活動の割合は低かったが、2.の問いの、活動をしてみたいかという質問には、年代を問わずほぼ3分の2の人が「はい」と答え、興味のある活動のテーマをいくつか選択している。従って活動そのものに全く興味がないわけではないこともわかった。

③身近な課題への興味

興味あるボランティアや地域活動のテーマとしては、「防災、災害」「環境」「安心安全なまちづくり」「町会、自治会」など、地域活動に密着したテーマが多かった。逆にホームレス、外国人、障がい者など、実は問題は身近にありながらも、あえて自分が立ち向かう問題として捉えることが難しいテーマに関しては人数が少なかった。ここでも40代、50代に絞ってみたが、テーマの順位に変わりはない。自分の暮らしに直結し、わかりやすいテーマが多かったのは、既に活動に携わっていたり<消防団や町会役員など>、一般的な認知度が高く皆が同じビジョンを抱きやすかったり<環境問題、安心安全>など、自分がその活動の中でどういう役割を果たすのかがイメージが付きやすいことが理由として考えられる。

④支援内容は「情報の提供」と「相談窓口」

ボランティアや地域活動に参加するための支援としては、「活動情報の提供」、「相談窓口の設置」で半分以上を占めている。このことから、情報が求められていること、さらにその情報をどのように選択すればいいのかを教えてくれる場所や人を求めているのがわかった。

2. シンポジウム「はじめての市民活動」粋な松戸で腕まくり！

(1) 実施概要

シンポジウム「はじめての市民活動～粋な松戸で腕まくり！～」

平成 19 年 9 月 24 日（月） 13:30～16:30 場所：ゆうまつど（松戸市女性センター）

- ・基調講演「マザーテレサに学ぶ地域デビュー」講師：枝見太郎氏（富士福祉事業団理事長）
- ・パネルディスカッション「粋な松戸はこう創る！」パネリスト 4 名（市民活動団体）
- ・交流会
- ・参加者数：約 40 名

(2) ねらい

①基調講演とパネルディスカッション：「地域」に関心を寄せた民間企業の退職（予定）者に対して、地域活動、ボランティア活動の認知をしてもらい、自分にとってそれらの活動が人生を豊かにする、地域を豊かにし、地域課題解決につながるというイメージを描いて、自ら活動することに興味を抱いてもらう。

②交流会：個人→団体のマッチング。地域デビューしたい人が、自慢したいこと＝スキルを団体へ売り込む、あるいは、団体はそのスキルをもっている人を獲得するそれらのきっかけづくり。

③次の Step の、DeBanda 講座や車座 DeBanda への参加を促す。

(3) プログラムの内容詳細

【第 1 部】 13:30～15:20 講演会「マザー・テレサに学ぶ地域デビュー」

【講師】

枝見太郎氏 財団法人富士福祉事業団理事長
東京ボランティア市民活動センター運営副委員長（02～）
社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 理事（05～）

講師自身のボランティア体験を切り口に、ボランティアという行動の概念として、ボランティアとはその代償を求めない無償の奉仕であること、強制力や恣意力の働かない自発的な行為であることが示された。また、ボランティア活動はその自発性、無償性の上に生まれる、社会に対しての先駆性、つまり行政や法の思惑に縛られずに、こうありたい社会を創る大きな原動力としての役割も期待されていることも提示された。

【第 2 部】 15:30～16:30 パネルディスカッション「粋な松戸はこう創る！」

コーディネーター 枝見太郎氏

各パネリストの役割と、提示されたメッセージをそれぞれ挙げる。

パネリスト

- ◆身の回りの地域課題をきっかけとして活動を始め、賛同者を増やして拡大し課題解決につなげる事例。

・泉さん 子育てサロン「ともだち・つくろう」

松戸に引っ越してきたときに、身近な地域に親子で遊べる場所がないという思いから、一人で子育てサロンを始めた。サロンを卒業したお母さんなど徐々に賛同者を増やし、定期的に行うことができるようになったところで、町会へ助成の打診。隣接する3つの町会から助成をもらって継続できる活動へとつなげている。(60歳代女性)

「生きてきた中で楽しかったものが活かされれば、無理しないで今後も続けたり挑戦したりできるのではないのでしょうか」

◆自分のスキルを退職後の活動に生かして、自分の生きがいとなっている事例

・鎌形さん 「スーパー紙とんぼの会」代表

現役時代は、技術者として活躍。退職したときにこれからやりたいことをノートに書き出したら、80個あったという。それを紙とんぼに絞り、その製作技術や指導方法に対して熱心に研究を重ね、常に改善に向けて努力しながら会を運営している。新しいアイデアを常に絶やさない。(60代男性)

「得なボランティアやっているなあ、って子どもの笑顔を見ながら思っています」

◆長く活動に関わっていた人があえて一線を退き、新しい組織を作り上げた事例

・渡辺さん 「NPO法人松戸子ども劇場」元理事長

子育て支援組織の代表として長く活動をしてきた。この次のステップとして自分のやるべきことを考えたときに、以前より課題と感じていた、地域に根ざした低年齢の子育て支援活動を行うことにして、新しい組織を立ち上げた。(50代女性)

「できあがった組織に入って行って決まったことの手伝いをするよりも小さくても自分たちで作るほうが、出来上がったときの喜びが大きい。先のことをあんまり心配しないで、とにかく始めてみたらどうでしょう。趣味だってそれを子どもに伝えようとすれば、それは市民活動になります。」

◆在職中に退職後の活動を見据えて自ら企画実行している事例。

・友山さん 「NPO法人人材パワーアップセンター にこにこクラブ」

退職前の現役サラリーマン。余暇や退職後にやることを模索していたときに、DeBanda講座に参加。そこでじっくりと自らの思いを引き出し、仲間やアドバイスを得て、趣味のお茶を利用したサービスを展開することを見つける。リラックスできる交流の場を仲間と開催している。(50代男性)

「とにかく一歩を踏み出すことです。できることより好きなことをして楽しく」

【第3部】 交流タイム 16:30~17:00

紹介カードに自分のことを書き込み、それをお互い見せ合いながら、興味のある相手を見つけて、お互い紹介しあう。

参加者は、積極的に自己紹介カードを活用、熱心にお互いのやっていること、やりたいことを2~3人で紹介しあう姿が見られた。30分を予定したが、足りないと思われるほどであった。

自己紹介カード

名前	やっていること
やりたいこと	自慢したいこと

(4) アンケート結果

講演、パネルディスカッション、交流会、それぞれに対して自由記述方式で回答を得た。

(有効回収票16)

アンケートでは、記入者の属性を問わなかったため、データとして取ることは出来なかったが、会場には、40代から70代後半と思われる様々な年代層がいた。回収したアンケートからは、既に活動をされているからの回答も多く(確実には16票中9票)、活動していない人、本事業の対象者と思われる回答は、4~6票に過ぎなかった。

①.講演会について(主な意見)

- ・様々なエピソードなど参考になった。
- ・ボランティアの定義、色々と考えています。
- ・これからNPOにしようとしているところで大切な基本を聞くことが出来ました。
- ・ボランティアとは何かが判りました。
- ・ボランティアの原点を多くの体験が体系的に触れられとてもよかった。
- ・25年ボランティア(団体スタッフ)をしておりますが、初心を見直すヒントをたくさんいただきました。
- ・ボランティアの原点に立ち返り、あらためて前に進むことが出来る。

②.パネルディスカッションについて(主な意見)

- ・なぜ活動をしているのか、一步を踏み出すことが大事。
- ・体験談及びボランティア立ち上げの勉強になった。
- ・現在苦しいボランティアを強いられているので、楽しくがんばっている方に力をもらった。
- ・個人の紹介で終わった感じです。私でも出来る、出番だという話も出来たらよかった
- ・テーマとディスカッションの内容が少し何か違うように思った。各人の特技の話が多かったように思う。
- ・ボランティアをしていることが好きと生き生き伝えることがこれからの人に大事と思います。
- ・それぞれの活動者のかたがどんな思いで活動されているかわかったのがよかったです。
- ・ボランティアに関わるきっかけが理解できた。

③.交流会について（主な意見）

- ・いろいろな団体のかたとお話が出来ました。ありがとうございました。
- ・一番盛り上がりました。よかったです。
- ・個人的には、いろんな人と話が出来たが、この後全体で話が出来たら尚良かった。
- ・とてもよい交流が出来ました。時間が足りないです。ゼッケン方式がいい。
- ・車座になって多くの人の活動の様子が共有できれば良い。

(5) 本プログラムの効果

アンケートの回答から、講演会には「ボランティアの原点、定義」、「ボランティアとは何かがあった」、「基本がわかった」、「初心にかえった」など。パネルディスカッションには、「ボランティアに係わるきっかけがわかった」「どんな思いで活動しているかわかった」「なぜ活動しているか、一歩を踏み出すのが大事」などという言葉が寄せられた。(2)で述べたねらいのうち、①に関しては、アンケート記入者に関してはねらい通りの効果が得られた。②の交流会に関しては、こちらのねらい通りの成果が残せたかについては、検証する手立てを設定できなかった。感想では、この交流会が一番良かったという意見もあり、個人や団体の交流にはなったようだ。

他に、パネルディスカッションでは、「個人の特技、あるいは紹介に終始した」という意見もあった。これは、地域課題を見つけ活動を始める素地として、どういう要素を各自（パネリスト）が持っているかを、コーディネーターの枝見氏が探り、その掘り起こしに時間をかけたことによるためだろうと思われる。

3. 地域デビュー講座「DeBanda！出番だ！」

本プログラムは連続 4 回講座である。全体の概要を述べた後、各回の内容、結果を列記し、最後に、まとめ、成果と課題を述べる。

3-1.本プログラムの概要

(1) 趣旨

地域の活性化や課題解決を、自分たちの手で取り組んでいく市民を育成し、松戸の地域力（自己決定力）UPを目指す。

(2) 目的

広く、地域の公益性のある活動に係わる多様な主体と NPO・市民活動団体との交流を促進する。「何かやりたい」と思っている市民が活動のきっかけを掴む。地域課題解決に取り組むための事業連携のきっかけ作り。

(3) 本システムにおける DeBanda 講座の役割

Step 1 で、「活動に興味を持った人」を、「活動へ参加する市民」「団体を設立する市民」へ育成する。

(4) 実施概要

各自の持っている力を引き出すため、参加型ワークショップ形式を基本にした講座とした。

日にち	時間・テーマ・内容
1回目 11/5 (月)	9:30~12:30 人生の棚卸 講師：森良氏 NPO 法人エココミュニケーションセンター 自分を活かしてやりたいことを考えよう これからのいい人生を歩む自分を想像しよう
2回目 11/12(月)	10:00~12:00 NPO を知ろう 講師：犬塚裕雅氏 NPO 法人コミュニティ・コーディネーターズ・タンク NPO ってなに？ 松戸の NPO 事情
	13:00~15:00 先輩に聴く！ 講師：小山淳子氏 まつど市民活動サポートセンターセンター長 NPO 法人コミュニティ・コーディネーターズ・タンク DeBanda 修了生に聴く！ 地域の達人からヒントをもらおう
3回目 11/19(月)	9:30~12:30 自分の思いをカタチにしよう 講師：森良氏 NPO 法人エココミュニケーションセンター 対象は？ねらいは？実際何をやるの？ 思いを具体化してカタチにしていきます
4回目 12/3(月)	9:30~12:30 自分を地域にアピール 講師：森良氏 NPO 法人エココミュニケーションセンター 既に活動している NPO や、関連団体の前で企画を発表。 思いを実際の活動につなげます

(5) 参加者リスト (一回でも参加した人を掲載)

(表 11)

#	名 前		11/05	11/12	11/19	12/03	企画要旨
1	Yoさん	20代	○	○	○	○	日中交流
2	Mさん	30代	○	○	○	○	農業で障がい者就労支援
3	Wtさん	70代	×	○	○	○	陶芸で松戸の文化を高める
4	Ykさん	60代	×	○	○	○	
5	Izさん	30代	×	○	○	○	遺言無料相談
6	Wcさん	20代	×	○	○	×	常盤平でまちづくり
7	Wさん	20代	○	○	○	○	子どもの居場所づくり
8	Oさん	20代	○	○	○	○	若者体験学習
9	Tnさん	30代	○	×	×	×	旅でみんなを元気にする
10	Knさん	70代	○	○	○	○	障がい者のダイビング
11	Hgさん	40代	○	○	○	×	産業カウンセラー
12	Ynさん	40代	○	○	○	×	ランニング居場所づくり
13	Oiさん	60代	×	○	○	×	NPOを知りたい
14	Fさん	60代	×	○	×	×	NPOを知りたい
15	Ogさん	60代	○	×	×	×	ボランティアがしたい
計			9	13	12	8	9

3-2. プログラムの内容詳細

各回の、実施概要、内容、結果、それについて気づいたことを表す。

(1) 一回目 (11月5日)

(1)-1. ねらい

一回目は、講座生の自己開示、自己肯定を促し、未来への期待感を高めて、やりたいことのイメージを描かせ、ひとつに絞る。そしてグループを組み直してのグループディスカッションにより、視野を広げ、新しい出会いによって生まれる意見や見解など、お互いに気づきを促し合う。達成に向けての可能性を抱かせるまでを到達点とする。

(1)-2. 実施概要

日時：平成19年11月5日 9:30~12:30

実施体制：総合ファシリテーター 森良氏 (NPO 法人エコ・コミュニケーションセンター)
グループファシリテーター (センターコーディネーター) 3名

流れ：

- ①アイスブレイクで全体でインタビューゲーム 10分
(1グループ3人程度に分かれる)

- ②タイムライン 15分
- ③タイムラインを利用した自己紹介 40分
- ④やりたいことを絞る。全体で共有し、グループ再編 20分
(休憩)
- ⑤やりたいことを広げて、グループ内でアドバイスし合う 60分

(1)-3. プログラムの内容詳細

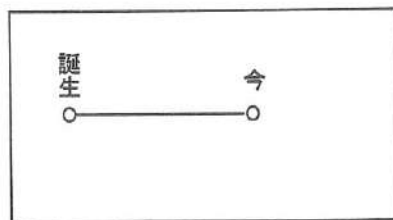
①インタビューゲーム

その人の属性と地域に対しての思いが出せるような質問を5つ用意し、一人ひとつそれぞれ質問する。時間内に出来るだけ多くの人と話をする。

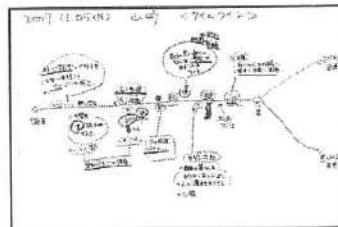
②最初に、タイムライン(人生線)で人生の棚卸しを行う。それぞれ白紙の真ん中に一本の線を引き、誕生から今までを振り返り、自分がやってきたことをライン上に自由に書いていく。

- ・できたこと、好きだったこと 得意だったこと

そこから、右上に線を伸ばして「良い人生」、右下に線を伸ばし「悪い人生」とし、良い人生にするには、これからどういうことをすればいいの、じっくり考え、各自書き足す。



タイムライン



ある人のタイムライン

③お互い、書き終わった後に、タイムラインを基に自己紹介し、この講座に来たきっかけなどを話し合う。

④タイムラインを振り返りながら、自分のやりたいことをひとつに絞り、A3用紙に大きく、やりたいことを書き出す。それを持って輪になりお互いに自分のやりたいことを説明しながら紹介する。お互い意見交換できそうな人、つながりたい人を求めて、新しいグループを作る。

⑤新しいグループ内で自由にやりたいことを意見交換し、ファシリテーター(進行役)が紙に書き留め、最後に、全体で、グループ発表をして、講座生全員の意見を共有する。

(1)-4. 各アクティビティーの意義と到達点

タイムラインでは、自分の通ってきた道を振り返り、ターニングポイントで何が起こって今に至ったかを振りかえる作業となる。そして持っているスキルの洗い出しと気づきを促す。これからどんなことをすればいい人生を描けるのかを考え、やりたいことの引き出しとそれを達成するイメージを描くことで、自己肯定感を生み出す。

③では、グループ内のメンバーに向かって自己開示を行い、グループファシリテーターやグループメンバーから様々な質問や意見を受けて自分の持っているスキルや思いへの気づきを促す。

④では、皆がどういうことをやりたいのか全体で共有する。そして人間 KJ※により、いっしょに何か出来そうな人、つながりたい、話したい人を見つけ新しいつながりを作る。

⑤では様々なアドバイスや質問、意見をもらうことで、可能性を広げたり、新しいアイデアが生まれたりすることを期待するものである。

※人間 KJ

問題解決法の KJ 法に倣ったもの。各自の意見を A3 用紙に書き出し見せ合う。そして自分に近いもの、つながりがあるものをそれぞれグループ化していくことを、DeBanda 講座では「人間 KJ」と呼ぶ。森良氏のワークショップ手法のひとつ。

講座生ごとのやりたいことや発言をまとめた。

■M さん (30 代女性)

・家は農家。NPO 法人を設立したい。しょう害者の就労支援の場として、農業を考えている。・
経理の勉強もしたい。ジョブコーチや産業カウンセラーにも興味ある。

■H g さん (40 代女性)

・産業カウンセラーの資格を取りたい。7ヶ月勉強して試験に合格すれば取れる。
・本当は、心理カウンセラーになりたいが、大学までは通えない。前の会社で病んでいる人がいて話を聴いてあげた経験あり、数字ではなく人と交わる仕事がしたい。

■Yo さん (20 代男性)

・地域社会学を勉強。自分自身ひとりで、ボランティアや寄付活動をしている。
・恩返しをする気持ちで、日中友好のために貢献したい。経済的格差の激しい中国で何かしたい。

■Kn さん (70 代男性)

・ボランティア体験の中でしょう害を持つ人に接してショックを受けた。・数年前始めたスキューバダイビングで得た海の中の世界のすばらしさを、しょう害者にも経験させてあげたい。今年の夏、プール介助のボランティアで、シュノーケルを利用したら、大変喜んでくれた。

■Og さん (60 代男性)

・無償でボランティアしたい。時間を買う感覚で勉強になる。
・リタイアしたばかりで、一般にどんなボランティアがあるのかもわからない

■Yn さん (40 代男性)

・現在の子どもの遊ぶ環境に対して、親として、安全に遊ばせる所がないと感じている。
・安全に遊べる環境を作りたい。地域のおじさんがコーチにくるようなランニングをするコミュニティを作りたい。ランニングで自分との対話をしながら一体感、達成感を得る。
・親も安心な子どもの居場所になる。マラニック (マラソンとピクニック)

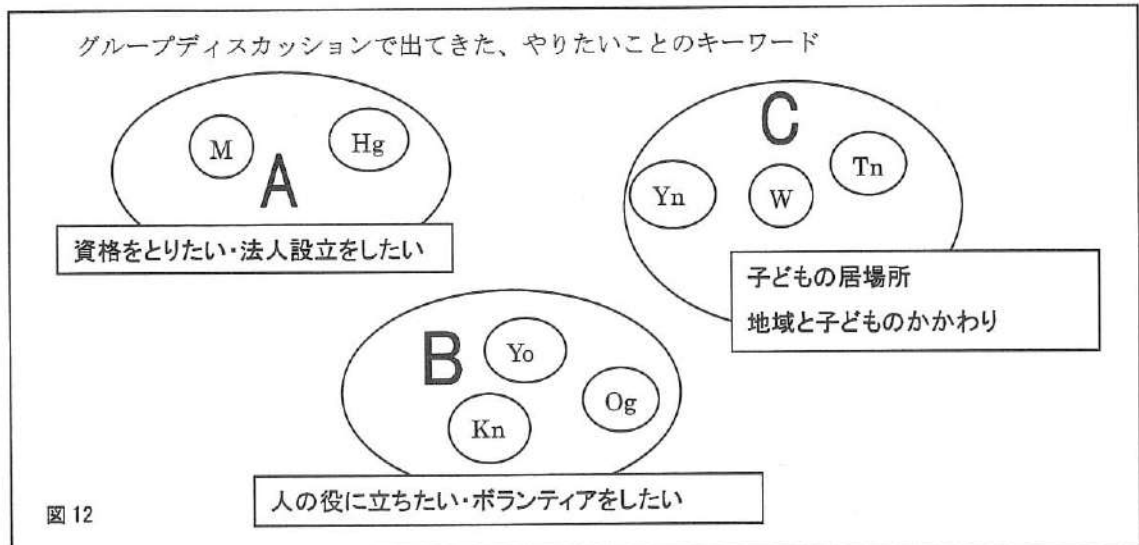
■Tn さん (30 代男性)

旅行というのは、一歩外に出ているらひとと会話すること、非日常で新しい発見が得られる。それを、高齢者や、子ども、ハンディキャップを持った人など、自分の力で行くことのできない人にも体験させてあげたい。

■W さん (20 代男性)

・いま子どもの世界は学校と家のみ、子どもの居場所を作りたい。考えている居場所とは、子ど

もが安心できる場所、自分を開放できる、一人でも行ける、見守ってくれる人がいる所。現状として学童保育も存在するが、条件や金銭が必要。児童館、青少年会館はあるが、数が少ない。



A グループでは、Mさんが子どもや家の事情など自己開示をするところで時間がかかった。しかししっかりとその時間をとったことで、多くのやりたいことを引き出すことができた。MさんHgさんともに、資格を取りたいとのことだが、しかしその資格をどのように生かすかについては、引き出せずに終わった。

B グループは、中国からの留学生であるYoさん、退職して10年のKnさん、1年のOgさんがそれぞれ構成メンバーであり、「ボランティア」自体に興味を持っていたことが共通点である。Yoさん、Knさんは、ボランティアを経験している。特にKnさんはそのボランティアを経験して感じた課題を解決しようとサポートセンターに相談に来たのが、この講座に参加するきっかけだった。彼のやりたいことを、実際にできることに落とし込む作業を試みたが、現実に行き止るといふと、本来Knさんがしたいことと離れてしまう、といった結果になった。Yoさんは自己開示に時間がかかり、Ogさんは退職したばかりでとにかくボランティアがしてみたい、ということで具体的に「何が」したいかは引き出せずに終わった。

C グループは、子どもを取り巻く環境への危機感が3人の前提にあり、そこから話が始まった。Ynさんのスポーツチーム＝居場所づくりと、Tnさんの、旅＝非日常を子どもや色々な立場の人が自分でプロデュースして経験することで主体的に動く人間になること、などが提示された。YnさんのチームとTnさんの企画をリンクさせる話が生まれたり、具体的な子どもの居場所活動をしているWさんの話を広げたりしながら話は進んだ。

グループ構成は、講座生の他に1グループに1人、グループファシリテーターがついた。狙いとする自己開示とやりたいことをイメージ化するには、グループは、講座生3人くらいまでが限界であり、それ以上では、話を充分引き出せないままに終わってしまうことがわかった。

(2) 2回目 (11月12日)

2回目は、午前と午後に分け、午前は、ボランティアやNPOという言葉の定義から、社会における役割についてのNPO入門的な内容の講義形式、午後は、DeBanda講座修了生やNPO活動をしている先輩に来てもらい、思いを持った状態から、今の活動に至るまでの経緯や仲間の見つけ方などを話してもらう。

(2)-1. ねらい

NPOやボランティアに関して、基礎的な知識の基盤づくりと共通認識をもたせることと、事例から、自分のやりかたを探り、実行計画のイメージをつかんでもらう。

(2)-2. 実施概要

日にち：平成19年11月12日(火)

午前の部

時間：10:00～12:00 NPOを知ろう

講師：犬塚裕雅氏 NPO法人コミュニティ・コーディネーターズ・タンク

内容：NPOってなーに？ 松戸のNPO事情

形式：パワーポイントを使った講義方式

午後の部

時間：13:00～15:00 先輩に聴く！

講師：小山淳子氏 まつど市民活動サポートセンターセンター長

NPO法人コミュニティ・コーディネーターズ・タンク

内容：DeBanda修了生に聴く！地域の達人からヒントをもらおう

形式：トークセッションで、進行役は講師が進行役を務める。

(2)-3. 午前の講義内容

最初に、前回の振り返りをして、この一週間で何をしたか、考えたかを一人ひとり話し、アイズブレイクとする。講義内容は、NPOという言葉の定義から、非営利ということは何か、他組織との違い。ボランティアとNPOの違い。松戸のNPO事情。NPOの活動の社会的意義。地域課題を解決するためのツールとしてのNPO活動についてと、NPOに対する知識の基盤づくりを行った。

(2)-4. 午後の内容

午後は、前回までのDeBanda講座生に来てもらい、修了してから今までの活動に至る経緯などを話してもらう。障がい者の就労支援を考えている講座生がいるため、福祉作業所を運営しているNPO代表にもゲストスピーカーになってもらった。

①各ゲストスピーカーの話した内容

◆知的障がい者福祉作業所を運営しているNPO法人の代表者 Yさん

(法人格をもって福祉作業所を運営している)

豆腐の加工や販売を手がけている。身内に知的障がいがあり、高校卒業後、就労場所が無く悩んでいるところに、宮城の豆腐に出会い、松戸でできないかと考え、社会的に信用が必要とNPO法人を立ち上げる。今は事務作業に追われている。市の補助金を給与に充てているが、月2万程度。喜びは来所者がいろいろなことができるようになって、外に出て地域と関わるようになったこと。夢は税金を払える社会人になってもらうこと。

◆相互扶助会員制組織のNPO法人 事務局長 Oさん

(生きがい探しモデル)

退職後、街が汚い事が気になって、広報でDeBanda講座のことを知って参加。そこで、出会った人と、いっしょに本土寺の掃除をするうちに、NPO法人の事務を任されるようになる。現在のボランティアの内容は、事務・経理的に問題は数多くあり、改善の余地があると感じている。しかし会の理念、「お互い様」で地域社会に関わっていくという姿勢に共感し、今に至る。

◆予防医療としての足裏マッサージを広める任意団体の代表 Nさん

(コミュニティビジネス視点を持ち、見本市を有効活用)

整体師の資格を生かして人のために何か出来ないか、と仕事をしながら「技術を教えて、身内でお互い施術しあうことで健康になることを広めていきたい」と考え、DeBanda講座に参加。その後昨年3月の見本市に出展し、そこで今のメンバーを獲得。「お金をかけずに健康になろう。松戸を元気にしたい」という理念で、講座を開催している。修了生は20分の施術で500円という対価基準を設けた。他団体との出会いで、仕事の依頼もくるようになった。仕事と、出て来られないお年寄りへの出張ボランティアとの線引きを考えている。

◆認知症予防と、認知症への理解を広げる活動をしている任意団体代表 Kさん

(DeBanda最終回のマッチングをきっかけで、活動拠点を作る)

叔母が認知症になったことがきっかけで、認知症の患者の家族のための会を開く。その後DeBanda講座を受講。最終日のプレゼンテーションで知り合った人の紹介で地域医療を推進している医師と出会い、場を提供してもらい、定期的に認知症予防教室を開催。来てくれた方々や先生のほめてくれる言葉が活動のやりがいとなっている。

②やりたいことの確認、発表

一回目と同じように、もう一度、A3用紙に自分のやりたいことを一言で書いて全体で輪になって発表。

③グループディスカッション

それぞれのやりたいことをふまえ、話したい先輩を囲んで 3 つのグループに分かれる。自分のやりたいことの参考にして考えてもらう予定だったが、立ち上げのことなど、先輩のより細かい話をきくことでほぼ時間が終わる。各グループ 1 人がどんなことを話したか発表。

(2)-5. ふりかえりシート結果

一日の講座を受けての感想をシートに記入してもらった。4 名より回収。

a. 講座を受けて気づいたことは？

(Wt) 綿密な計画とやる気が必要なこと

(Kn) 自分の目的に共感してくれる人をどう探すか。どこまで自分の気持ちと意欲が保持できるのか。公益性の気持ちはどこまで保持できるのか。

(Yn) 「どう社会に貢献していくか」ということは最初にあるというよりは、身近な環境の中でどう関わっていくかというところからスタートし、活動していく中で社会貢献や地域との結びつきもうまれてくるのだろうと感想を持った。

(Yk) 各仕事内容は種々あるが、書類の整理が大変だということ

b. 講座を受けてわかったことは？

(Wt) 非常に労力を必要とすること

(Kn) 自分を見失わないことの重要性

(Yk) 自分自身が楽しくなくてはできない。市民が動く、生活に期待を持てる

(2)-6. 問題提起

ふりかえりシートを見ると、一部ではあるが、活動意欲を維持することに対して不安要素を持ったのがわかる。午後の事例発表で、活動を立ち上げた時の課題をどのように解決したかというところは、簡単に終わってしまい、立ち上げ後の運営上での現在の課題が多く提示された。もちろん講座生の興味あるところではあったが、まだ描くビジョンがあやふやな段階の講座生には、先輩の活動がかけ離れてしまい、なぞらえる存在として捉え切れなかったのではと考える。

この講座が、立ち上げ支援機能を果たしてきた理由のひとつに、集まった講座生に合わせて講座内容を組み替えていくところにあるが、ゲストスピーカーは講座の企画段階で設定するので、講座生のニーズをある程度予測する必要がある。もちろん立ち上げの方法論は普遍であるべきだが、講座生の共感を呼ぶゲストスピーカーの設定は慎重に考えることが重要になる。

今回、Oiさんは、典型的な退職者の「生きがい探しモデル」としてスピーカーにした予定が、今回の講座生でそのニーズに合致するモデルはいなかった(退職者の生きがい探しモデルとして、一回目のOgさんがあてはまっていたと思われたが、2回目以降は欠席)。講座生の興味は、Oiさんが現在携わっている事務局業務に関してであった。

今回感じたゲストスピーカーの話と参加者の期待との乖離は、最初に想定した対象の「退職後に地域で何か活動してみたい、ボランティアをしてみたいけど、何をしたらいいかわからない」という層が講座生として来ていないことの結果のひとつとして現れたともいえる。DeBanda 講

座の講座生は、どのような層を狙うか、今一度再設定する必要がある。

(3) 3回目 (11月19日)

(3)-1. ねらい

1回目でテーマを絞り、2回目でNPOや市民活動の定義や、事例を聞くことにより、「自分ならこうする」といったイメージを膨らませてきている。3回目は、そのイメージを実施計画として紙に落としこんで、周囲に対してアピールし、皆からアドバイス、意見を受けて、さらに実施計画のブラッシュアップを図る。

(3)-2. 実施概要

日時：平成19年11月19日 9:30~12:30

実施体制：総合ファシリテーター 森良氏 (NPO法人エコ・コミュニケーションセンター)

グループファシリテーター (センターコーディネーター) 3名

流れ：

- | | |
|--------------------|--------------|
| ①アイスブレイク、一週間でやったこと | 10分 |
| (1グループ3人程度に分かれる) | |
| ②マインドマップ作り | 書く30分 共有 40分 |
| ③ポスターづくり | 書く30分 共有 30分 |

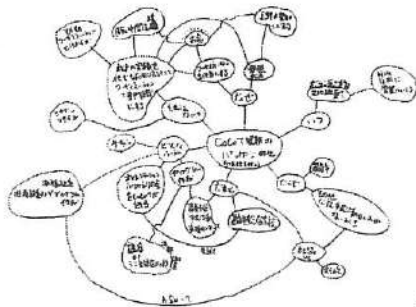
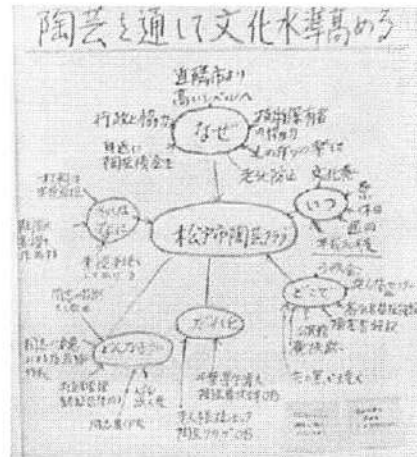
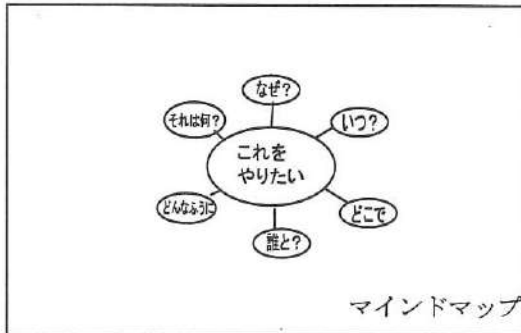
(3)-3. プログラムの内容詳細と成果物

①一週間でやったこと

イスを持ち出し、輪になって、前回から今までに考えたこと、やったことを1分程度で話してもらおう。

②マインドマップ (所要時間：書く作業40分 グループ内共有30分)

- ・ひとつのテーブルに4人ずつなるように座り直す
- ・A3のコピー用紙(白紙)を一人一枚配布。サインペンを使って、発想を広げて、実現に必要な項目を洗い出す作業をする。
- ・やり方としては、真ん中に、「自分のやりたいこと」を書く。その周りに「なぜ」「いつ」「どこで」「誰と」「どんな風に」「それは何?」と書き出し、そこから発想を広げる。実際的なことばかりでなく、考えられることは何でも書き出す。



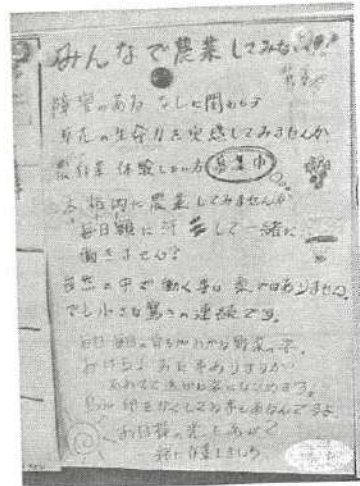
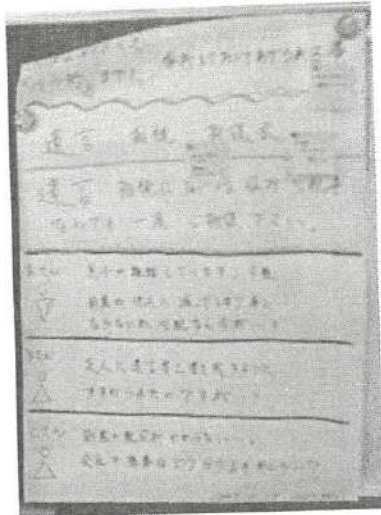
講座生のマインドマップ

・それぞれ、マインドマップを書く作業をしたあと、グループ内で共有をし、アドバイスがあれば、ポストイットに書き出し、紙に貼り付ける。(共有にひとり 10分はかかった)

③ポスターづくり

- ・各自に A1 用紙を渡して、ポスターづくりを行った。 (30分)
 - ・全体で、ポスターを前にしてやりたいことを発表 (30分)
- それぞれ、わからないところやアドバイスをしあい、出た意見をポストイットに書いてポスターに貼り付け、次回への参考にしてもらった。
- ・講座生のポスター





(4) 4回目

最終日は、前回から2週間置いての開催とする。その間にプログラムのブラッシュアップを図るためである。前回の11月19日と最終回のために2週間のプランクを設けたが、11月26日は相談日として場所は確保した。そのときは、Mさん、Wtさん、Knさんの3名が来所してお互いのプランに対してアドバイスをしあった。

(4)-1.ねらい

既にコミュニティ・ワーカーとして活躍している人や企業、NPO、市民活動で活躍している人の前で、発表することにより、企画のブラッシュアップと新しいつながりが生まれることを期待するものである。講座の最後には、講座生のゆるやかなネットワークの形成へつなげる。

(4)-2.実施概要

日時：平成19年12月3日 9:30~12:30

実施体制：総合ファシリテーター 森良氏 (NPO法人エコ・コミュニケーションセンター)

グループファシリテーター (センターコーディネーター) 3名

流れ：

- | | |
|----------|---------------|
| ①ポスターづくり | 書く30分 共有30分 |
| ②発表会 | 一人7分 (1時間10分) |
| ③交流会 | 40分 |

②発表会 (1時間10分)

この発表会には、地域の市民活動団体、企業、福祉関係者、学生などを呼んで、アドバイスを地域資源の紹介、また自分の活動とどのように連携できるかを積極的に考えてもらった。

広報まつどに掲載し、今までの事業参加団体にメールを一斉配信して、参加を呼びかけた。DeBanda 修了生や、是非来てほしい人には、直接、電話等で連絡し来てもらった。

・Tkさん：DeBanda 1期修了生。互助ボランティアのNPO法人で活動。60代男

- ・ Ka さん：DeBanda 2期修了生、景観や園芸関係の団体に属して活動。60代男
- ・ Hr さん：DeBanda 2期修了生。60代男
- ・ Na さん：DeBanda 3期修了生。団体代表として活動。2回目のゲストスピーカー、30代男
- ・ Ho さん：30代社会人、週末ボランティアで養護学校に行っている。30代男
- ・ Sa さん：企業、地域 SNS を立ち上げ運営している。40代男
- ・ lw さん：中高年の生きがい探しのお手伝いをする NPO 法人の代表。60代男
- ・ Sz さん、On さん：在宅介護支援センター職員 20代女、30代女
- ・ Km さん：ものづくり NPO の代表。60代男
- ・ Ym さん：慶應義塾大学院生 社会学専門。20代男
- ・ Ts さん：元公民館職員。60代男。

と、企業や学生、福祉専門職員、DeBanda 修了生、NPO 法人運営者、元公務員など多様な立場の人が発表会に参加した。

【発表者の企画タイトル】

- ・ (Wt さん、Yk さん) 陶芸を通して、松戸市を元気にする
- ・ (M さん) みんなで農業～植物の成長を感じてみませんか～
- ・ (O さん) 体験学習デザイン事業
- ・ (Wc さん) “まち”に関心を向けよう、常盤平って NANDA?!
- ・ (W さん) 地域に子どもの居場所づくり
- ・ (lz さん) 相続・遺言、無料相談室
- ・ (Yo さん) ようこそ「中国語」勉強会
- ・ (Tn さん) 旅でみんなを元気にする

ひとり 7 分の発表に対して、参加者からも、具体的なアドバイスや対象者の設定、マーケティング手法の提案などがあり、かなり活発な意見交換の場になった。

③交流会 (40分)

休憩の後、いくつかのグループに分かれて、参加者と発表者による意見交換会を行った。

これからつながりを持つことで、活動が広がることが予想される人と講座生を同じグループにすることを心がけた。そのためかこの先の具体的な話が出来たり、アドバイスしあったりすることができた。

(5) プログラム全体のふりかえり

今年で4回目の DeBanda 講座、講座のアンケートに寄せられた言葉とともに、全体を振り返り、今年の成果と課題をあげる

(5)-1.アンケートの結果

①講座に参加して得たことは？

- ・ NPO 法人について学べたこと、夢が具体化出来そうになったこと (Wt)
- ・ 先輩及び、職員の方々と交流し、陶芸以外を学べたこと (Wt)
- ・ 色々な話し体験談が聞けた。勉強になった (Yk)
- ②講座に参加した不満に思ったことは
 - ・ 年齢別に考え方が違ったこと (Yk)
- ③講座の中でこうしたほうが良いと思われたことは？
 - ・ 既に NPO 活動をしているかたがたとの交流時間を長く (Wt)
 - ・ もう少し、具体的な話し合いがしたかった。(Yk)
- ④講座の前と後で自分自身変わったことがあったらどのように変わったか教えてください。
 - ・ 今後の進め方の中で相談できる方々を知り得た。(Wt)
 - ・ 松戸という地域の問題点が、こんなにあるとは思わなかった (Yk)

(5)-2.成果

①地域課題の存在や課題解決する組織の認知

多様な地域課題の存在と、その解決に取り組んでいる団体があることの認知が出来た。

②市民活動の視点を企画に取り入れることが出来た

今回、陶芸を教えたいという、言わば生涯学習系のサークル活動になってしまいがちなテーマの講座生がいたが、そこへ、陶芸を教えることで松戸の文化水準を高める、障がいや、高齢者など社会的弱者のかたに、ものづくりの楽しさを教える、といった市民活動としての視点を与えることができた。

③講座生 9 名が地域の人の前で発表できた。

全回出席 6 名、講座の途中から参加してその後続けた人が 3 名いた。企画発表した人は、それぞれ丁寧にフォローしていけば、実際の活動としてつなげられる可能性がある。

(5)-3.課題

①コミュニティ・ビジネスの視点の導入

昨年度の DeBanda 講座から、ビジネスとして市民活動／ボランティア活動を成り立たせることの方法論について、議論にのぼっていたが、今年度は、昨年度まで資金面での意見が少なかったシニア層からも同じような問題が提示された。一般の市民にも、持続可能なボランティア活動には、ビジネスの視点が必至であることが浸透しつつあることを感じた。DeBanda 講座が、実際の立ち上げまでを支援する講座であることを維持するのなら、資金調達に特化した内容を、差し込む必要が出てきたとも言える。午後の事例発表に対する質疑応答にも、どうやって、継続できる活動として資金を調達しているか、スキルに対して、どのような対価設定をしているか、などに講座生の興味が集まっていた。

どのプロセスでそのカリキュラムを入れるかが、今後の課題である。

②対象者を設定する上での課題

本学習システムのねらいとしては、Step 1の「はじめての市民活動」を通して「活動に興味を持ち始める市民」になった人を対象と設定していたが、今回は、そのルートで参加してきた人はいなかった。NPO 立ち上げ相談や日常の相談業務から、呼びかけて参加した人が主であった。しかも、この連続講座を最後の発表まで通して参加できた人は、NPO を立ち上げたい、と相談してきた人がほぼ占めている。

「活動に興味がある、とにかくボランティアをしてみたい」という段階で、この講座に参加した場合、a.他の企画に賛同しそれを応援（参加）する b.自分で作り上げる のどちらかの選択を迫られる。そこで参加者がどちらかを選べたときに、継続受講者となり、どちらも選択できなかった人が不参加者となる。

問題は、「活動に興味を持ち始めた市民」や「活動に参加している市民」が、団体を立ち上げようと思うか、ということだ。NPO を立ち上げる、活動を始めようというきっかけはどこから生まれるか。相談業務の経験知であるが、自分の身に晒されている問題が、地域課題によることを認識している場合が多い。従って、DeBanda 講座の対象は「明確に表現できなくても地域課題を身近な問題として感じて何とかしたいと思っている人」である。

しかし今回、講座に参加しながらも、最後の発表までたどり着かなかった人が3名（Kn さん、Yn さん、Og さん）いた。

- ・Kn さんは、「活動に参加している市民」で、課題も認識している人であった。
- ・Yn さんは、活動こそしていないが、地域課題は認識していて、自分なりのやりたいことは抱いていた。

そのような人たちが、なぜ最後まで講座をやり通すことが出来なかったのかを分析し、今後の講座にフィードバックさせることが必要となるが、分析に必要な材料を講座の中で設定できなかった。

4. NPO・市民活動見本市

(1) 趣旨

NPO・市民活動団体と市民の出会いの場を提供することで、幅広い市民が市民活動への参加し、地域課題を解決するという成果を引き出し、NPO・市民活動の更なる活性化につながるという好循環を導き出すための交流の促進と、地域の多種多様な主体と、NPO・市民活動団体のネットワーク形成のきっかけづくりを図る。

(2) 目的

広く、地域の公益性のある活動に係わる多様な主体とNPO・市民活動団体との交流を促進する。「何かやりたい」と思っている市民が活動のきっかけを掴む。地域課題解決に取り組むための事業連携のきっかけ作り

(3) 本システムの見本市での役割

- ①DeBanda 講座生の企画を実験的に発表する場、仲間を探し出す場
 - ②実施機関としての見本市実行委員会という、市民参画の現場。
 - ③講座生が、他の地域ネットワークへ参加するきっかけ
 - ④大学と連携し他所で開催することで、コミュニティ・ワーカー活動の受け皿拡大の可能性。
- 以上、DeBanda 講座で得た企画力や地域とのつながりを現場で生かし、活動の広がりを生むことを期待するものである。

(4) 実施概要

見本市の、今年度の実施概要を記す。

- 4月～7月 準備委員会 委員構成… 7名(事務局1名含む) 全2回
前年度の実行委員会の有志から構成。次回の大枠の方針と企画を提案する
- 9月～2月 実行委員会 委員構成… 14名(事務局2名含む) 全11回
公募形式で、活動団体からの参加ではなく、個人で参加するスタイルをとっている。
見本市を動かすための実施機関。サポートセンターは事務局。

実施

- 3月1日(土) 10:00～17:00 場所:まつど市民活動サポートセンター
及び矢切公民館、社会福祉協議会ボランティアセンターの一部
- 参加団体… 64団体 参加者数… 1,000人
- 3月2日(日) 11:00～16:00 場所:聖徳大学生涯学習研究所
テーマ「こうして解決した!私たちの底力」
聖徳大学生涯学習研究所主催「学術フロンティア推進事業プロジェクト」のの一環
NPO・市民活動見本市実行委員会と同大学との協働事業
参加団体… 市民活動団体による掲示(14団体)、事例発表(8団体)

参加者数… 100人

(5) 本システムにおける見本市の成果

①DeBanda 講座生の企画を実験的に発表する場、仲間を探し出す場

今年度の DeBanda 講座生の参加状況は、以下の通りである。

M さん

農作業を通じて、植物の生命力を感じてもらって皆に元気になってもらうことを目的とした団体。自分の活動の PR として、無農薬野菜販売を行った。

Yk さん、Wt さん

生涯大学陶芸科の卒業生で構成され、自分のスキルを生かし、松戸の文化水準を高め、広く物づくりの面白さを伝えたいという趣旨の団体。講座の中で提供メニューを作り上げ、見本市の場で発表した。

【団体アンケートより】

- ・グループの一員として準備段階から本番まで協働でき、学ぶことができた。
- ・ボランティア活動の先駆者から言葉をかけていただいた。
- ・他市から活動要請の申込みがあった。

最終日の発表をした 9 人のうち、3 人(2 団体)が見本市の参加につながった。団体アンケートから、「松戸陶芸クラブ」は、地域ネットワークへの参加ができたこと、具体的な活動場所の広がりを作れたことが報告された。M さんからも見本市をきっかけに他団体との交流ができたとの報告があった。

②実施機関としての見本市実行委員会という、市民参画の現場。

DeBanda 講座の終了が 12 月上旬で、その頃には、実行委員会構成が固定されてきており、参加にはつながらなかった。

③大学との連携

- ・準備段階から、既に市民活動経験豊かな退職者とこれから関わりを探そうとしている市民が、大学との交渉ごとや意見交換を進めていったこと。
- ・市民が主体となった見本市実行委員会が見本市参加団体に積極的に大学への出展を勧め、イベントのセッティングをしたこと。
- ・大学研究機関というこれから地域社会との関わりを持とうとしている退職者にとって、信頼の置ける機関で、情報提供できたこと。

以上は、地域との連携によるコミュニティ・ワーカーの受け皿作りの準備としては、一定の成果が認められるが、受け皿となりえたかどうかは、今回の調査では、明らかになっていない。

5. フォローアップ体制

フォローアップ体制として、毎月一回テーマ型交流サロン「車座 DeBanda」と「DeBanda 講座の同窓会」を設定した。

5-1. テーマ型交流サロン「車座 DeBanda」

地域に関心を持ち始めた人や NPO・市民活動に関心を持ち始めた人を対象に、活動のきっかけとなる場（サロン）を提供することを趣旨とし、参加者がより深く市民活動に興味をもち、活動の参加へのきっかけをそこで得ることを目的に、平成 18 年度 5 月から実施している。

(1) 昨年度からの改善点

フリートークで水曜日の午前中に実施していた昨年は、参加者数が少ないのが課題であった。それを踏まえて、今年度は、テーマ設定をし、開催場所と時間を見直した。

① テーマ設定

事前ミニニーズ調査では、興味のある活動テーマとして、身近な問題である、「防災」、「環境」、「安心安全」が上位を占めた。テーマの内容を考えると、そのことについては、すでに活動をしているか、身近でイメージの付くテーマを選んだことが推測される。

今回は、上位 3 つからは、「環境」と、4～50 代、60 代以降も押し並べて選ばれている、「次世代育成（子どもの居場所づくり、育児・子育て支援）」をまず選んだ。次世代育成分野では、企業人の参加を促すために、「パパの子育て」とした。

車座 DeBanda のテーマは、今後どのような方向性で選択すべきなのかの検証として、その他の月は、事前ミニニーズ調査では下位だったテーマを取って設定した。

② 開催場所と時間

退職後を見据えた、企業に勤めている人の来やすい時間帯と場所として、19 時から、交通の便がよい松戸駅の近くの公共施設を利用した開催とした。

(2) 車座 DeBanda の本システムで役割

各 Step での参加者が次の Step へ移行するまでのつなぎとして、そこに行けば常に、地域活動や地域活動をしている人々に出会える、意欲を下げないための情報発信収集の場とする。

(3) 各月の実施概要

【基本実施体制】

日程：毎月第 4 水曜日 19:00～20:30 場所：ゆうまつど（松戸市 女性センター）

実施体制：ファシリテーターとスタッフ数名

【9 月】

日時：9 月 26 日（水）19:00～20:30 テーマ：アジアの貧困層支援で刺繍コンテスト

ゲスト：佐藤さん 「アジアの文化を守り 育てる会」

参加者：7名（サロン運営者、地域 SNS 運営企業、お茶ボランティア他）

内容：佐藤さんの活動内容、現地や日本国内での展開などを聞くのがメイン。刺繍小物を販売につなげるには、などのアイデアが出た。

【10月】

日時：10月24日（水） 19:00～20:30 テーマ：パパの子育て どうしてる？

ゲスト：榊原さん（株）フォークソノミー「地域 SNS 管理運営」

参加者：12名（松戸に引っ越して間もない夫婦や、企業に勤め市民活動をしながらも子育てにしっかりと関わっている男性など）

内容：子どもに向き合うために今の自営業を始めたというゲストの話から、お互い松戸という地域での子育てについて話し合う。お互いが知っている「親父の会」などの取り組みを紹介しあうなど、個人的な考え方、情報のやりとりが主であった。

【11月】

日時：11月28日（水） 19:00～20:30 テーマ：松戸で広げよう！ 3R

ゲスト：平田さん 生ごみ資源化を考える会の代表

佐藤さん 常盤平地域活性隊で製作したエコバックのデザインを担当

参加者：10名（生ごみの会からは3名、サロンに興味のある人、有機野菜生産者など）

内容：平田さんに関しては、活動への取り組みの後、堆肥化のあとの肥料の有効性や、資源化自体の有効性などの論議がされた。佐藤さんはエコバックの話から、属する団体が主催している地域のイベントの話になり、常盤平地域活性隊の取り組みが紹介された。

【1月】

日時：1月23日（水） 19:00～20:30 テーマ：ホームレスを考える

ゲスト：副田さん NPO法人市川ガンバの会 代表

参加者：14名（既に活動に参加している人、興味のある人数名など）

内容：一線活躍している副田さんから現状を話してもらい、その後は質疑応答。サポートセンターで初めて取り組んだテーマだったこともあり、新しい顔ぶれが集まった。

【2月】

日時：2月27日（水） 19:00～20:30 テーマ：学校連携の地域づくり

ゲスト：熊倉さん、山田さん、松飛台地域ホッとコミュニティ

参加者：11名（子育て支援で活動している人数名、子育てで悩んでいる人など）

内容：ゲストの話のあと、実際に活動に取り組んでいる団体からの紹介や各地での学校連携についての話題で語り合った。

（4）成果

①スタイルの確立

テーマを設けて、9月から夜間で駅の近くの施設でやる、というスタイルが確立した。構成メンバーとして、ゲスト、ゲスト関係者、スタッフ以外は、以下のように分類される。

- a. 広報まつど、HPなどを見てテーマに興味を持って参加する人（不特定）
- b. センターで呼びかけた、テーマに興味ありそうな団体や、個人（不特定）

c. どんなテーマでも都合が付けば出席する人（特定）

d. お茶を提供するボランティア（特定）

この中で特筆すべきなのは、d.のお茶ボランティアである。このかたは第一回 DeBanda 講座修了生で、お茶をサーブすることで会議の雰囲気づくりを演出する、という趣旨の活動を始め、この車座 DeBanda で毎回、各種のお茶を提供している。

②人の循環を生み出す場

前項の b.は、ゲストスピーカーと出会うことで、次の活動や動きを生み出すことを期待してセンターのほうで呼びかけているが、実際、ここに参加したことで次の動きを生む事例はいくつか出てきた。

事例 a) 9月の会で、地域 SNS 運営者が参加し、SNS の場で車座の内容を紹介。その SNS がこのサロンの紹介や報告をする一つのツールになった。

事例 b) 11月のゲストスピーカーの話が、1月に行ったサポートセンターの主催シンポジウムのパネルディスカッションの話題として取り上げることにつながった。

③本システムへの効果

車座 DeBanda のシステムでの役割は、以下のように考えられる。

a. DeBanda 修了生の活動、発表の場

b. 修了生が新しいつながりを作る場

c. DeBanda 講座でつながった修了生、発表会参加者などの情報交換の場

(5) 課題

- ・ 定期開催が認知されつつあるが、まだ浸透していない。
- ・ この車座で生まれたつながりが、どんな効果を生んでいるかを回収するしくみがない。
- ・ 車座 DeBanda に参加した個人が団体の活動に参加した例は報告されていない。

5-2. 「DeBanda 講座」の同窓会

DeBanda 講座の同窓会は、3回設定した。

①1回目 日時：1月26日（日）16：30～

※シンポジウム「まちは市民でつくるもの」の交流会と兼用で開催 3名参加

②2回目 日時：2月1日（金）16：00～17：00 2名参加

③3回目 日時：3月1日（土） ※見本市同時開催 4名参加

(1) 成果と課題

お互い近況報告と情報交換はできたが、お互いの予定がたたず、参加人数が少なかった。

従って、サポートセンター側で講座生の終了後の経緯を把握することが出来た他、成果は得られなかった。講座終了時にしっかりと次のネットワーク形成に向けての仕掛けをしっかりと作っておく必要がある。

第3章 システムの検証

第1章で述べた学習システムが、「社会経験豊かな民間企業等の退職（予定）者が、自分の持っている資源を最大限に活かすことのできる場や仲間を得、地域で活躍することを目的としたまちづくりの担い手（コミュニティワーカー）を育成する学習システム」としてどのような効果があったかを、システムを構成する各プログラムの参加者がどのように変容したかで検証する。

またこのシステムは、まつど市民活動サポートセンターの3～5年に亘って実施してきた個々の事業の再構築のシステムである。したがって、今までのプログラム参加者の変容も上記の検証に加えたい。

1. 各プログラムのまとめ

・Step1のはじめての市民活動では、来場者の意識を、ボランティア活動や地域活動に興味を持たせるところまでは至ったが、次のStep2（DeBanda 講座、車座 DeBanda）への参加にはつながらなかった。

・Step2のDeBanda 講座では、参加者15名中9名が最終回の地域への発表会で自らの企画を発表することが出来た。そして、その発表者のうち、3名（2団体）が、Step3のNPO・市民活動見本市に団体として参加し、地域ネットワークへの参加を果たした。

・一方、フォローアップ体制としての車座 DeBanda では、プログラムと人の循環を生み出すことが出来た。

2. 経年プログラムとしての参加者の変容

今までのプログラム参加者が、どのように変わっていったかを、DeBanda1期からの参加者も含めて、いくつか挙げる。

Naさん）DeBanda 3期生

昨年度の講座で、自分のやりたいことを整理した後、その4ヵ月後の見本市に参加。そこで、第一回のコース参加生を獲得する。その第一回の仲間が、今では事務局やスタッフを担うようになり、各地で講座を開催するに至っている。今年度の見本市でも多くのスタッフと一っしょに、デモンストレーションを行った。平成20年度は、まつど市民活動サポートセンター主催事業であるレッツ体験（夏休みの学生ボランティア体験）プログラムに参加申込みをし、ボランティア受け入れをするまでに至る。

Tさん）DeBanda 1期生

Step1のパネリストでもあるTさんは、DeBanda 講座をきっかけに、お茶をサーブすることで会議の雰囲気づくりを演出する、という趣旨の活動を始め、今はコミュニティ・カフェを主催。また、市民活動サポートセンターの主催事業のワークショップでお茶のサービスなども行っている。車座 DeBanda で毎回、各種のお茶を提供している。

Mさん、Wtさん、Ykさん) DeBanda 4期生 (今年度)

3名とも DeBanda 講座後、見本市で出展し、地域ネットワークへに参加した。
Mさんは、その後、車座 DeBanda にも参加している。

Saさん) 企業の社会貢献部門担当者

市民活動サポートセンターに、相談に来たのがきっかけで、見本市実行委員会メンバーになる。その直後の車座 DeBanda に参加し、10月にはゲストスピーカー。そして DeBanda の発表会にも参加。そこで出会った M さんを巻き込んで、見本市で団体として参加するなど、人をつなぐ核のひとりとして機能した。

Ymさん) 大学院生

市民活動サポートセンターに、相談に来たのがきっかけで、DeBanda 講座の発表会に参加。その後1月に開催したセンター主催のシンポジウムがきっかけに、松戸のNPOを研究対象と決め、地域活性化に携わるNPOと関わるようになる。2月の車座に参加、見本市でも個人ボランティアとして参加した。

上記の参加者の流れを表した(図14)。あくまでも一例である。このように、今までプログラムに参加してきた人が、多様な入り口から、様々なプログラムに関わるようになり、それぞれ地域のネットワークとつながり、次のステージで活躍しているのがわかる。

DeBanda2期生) 緩やかなネットワークを形成、継続している事例

平成17年度のDeBanda講座2期生は10人ほどのメンバーである。講座終了後、1年間は定期的な同窓会を開きお互い近況報告をしあい、18年度の見本市では、DeBanda2期生という1団体として、見本市の場で団体発表をした。今では、お互いの活動を励まし、手伝いあう仲間となっている。同窓会がうまく運営されてきたのは、2期生としてのつながりを継続させたいという欲求をもつメンバーが核となり、進めてきたからである。そのうちの一つの「簡単手作り料理」は、他NPOや地域、行政とのコラボレーションも積極的に行って活動をさらに広げている。

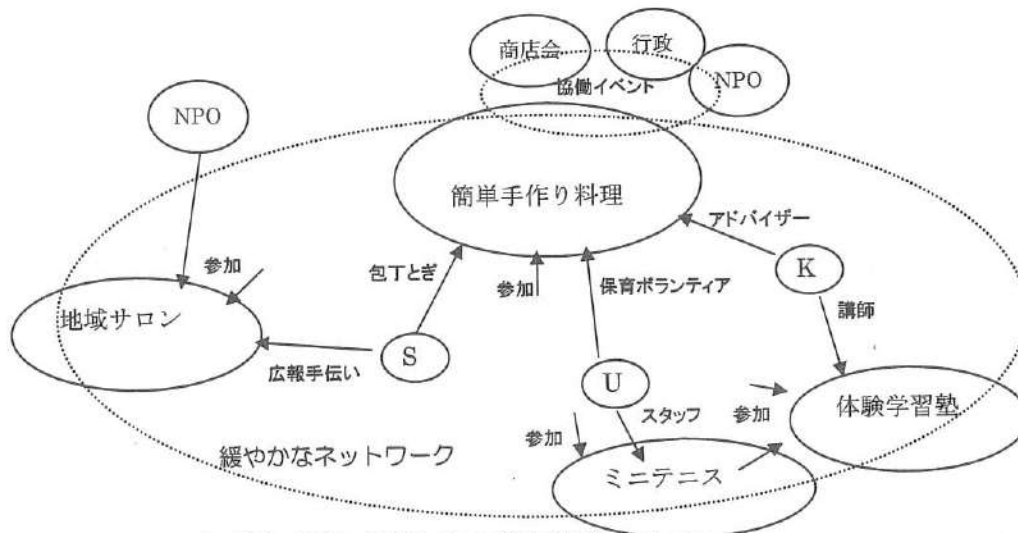
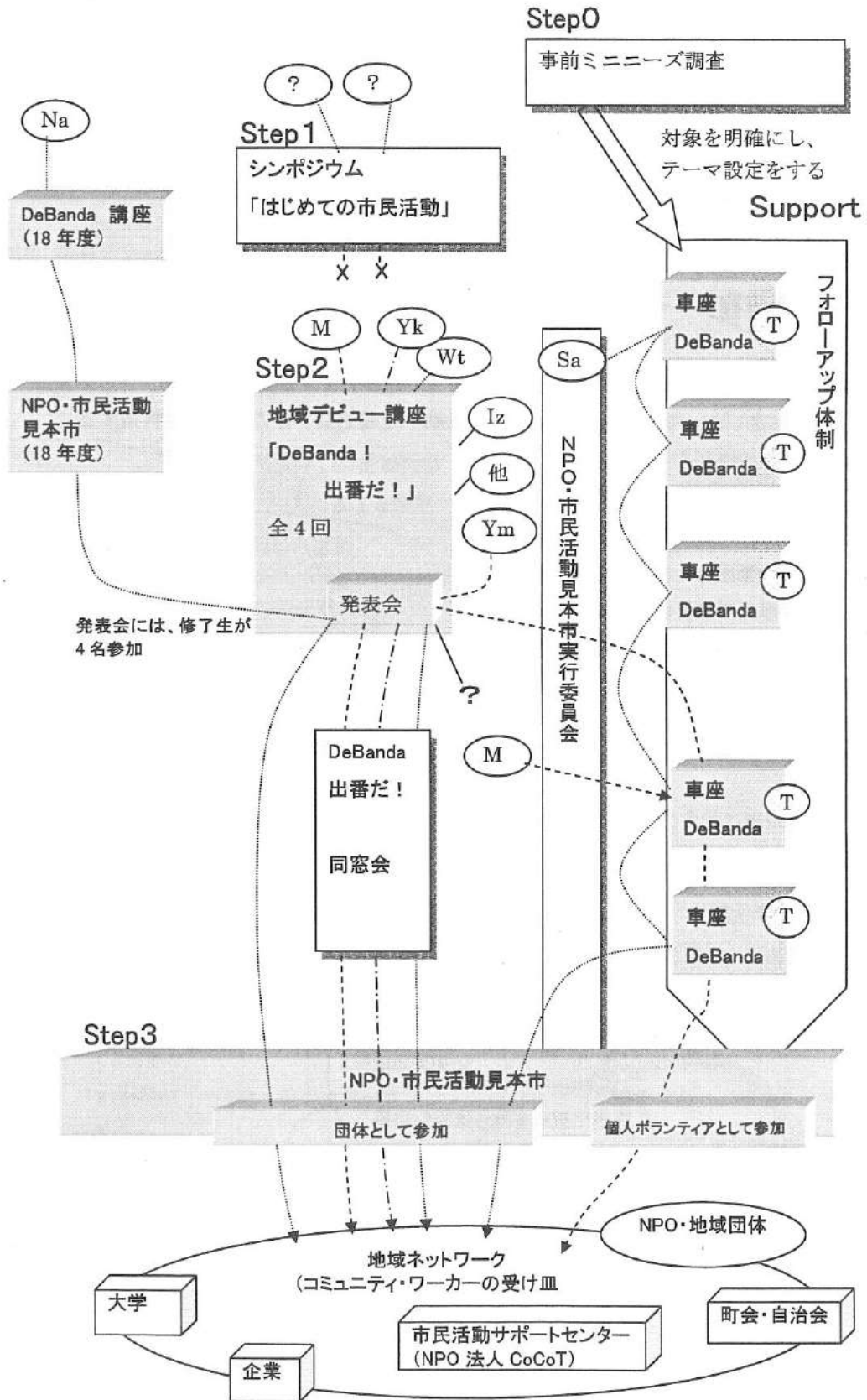


図13 DeBanda2期生で形成、継続している緩やかなネットワーク

図 14 学習システムに参加した、参加者の動向



3. システムの成果

以上により、いろいろな段階のプログラムを用意し、多様な入り口（参加者、見学者、ボランティア、ゲストスピーカーなど）を設定することで、人が循環し、さらなる交流を生み出しコミュニティ・ワーカーとして育成されていく様子が検証できた。これによりわかったことは、多様な入り口から入った様々な背景やニーズを持つ退職者は、それぞれの志向から活躍する場を求めていくが、その受け皿を分かりやすく置くことと退職者が出会う機会が必要だということである。また、その出会いは、互いの思いや提供できるものを明示し、互いを知り合えるものでなくてはならない。

4. 今後の課題

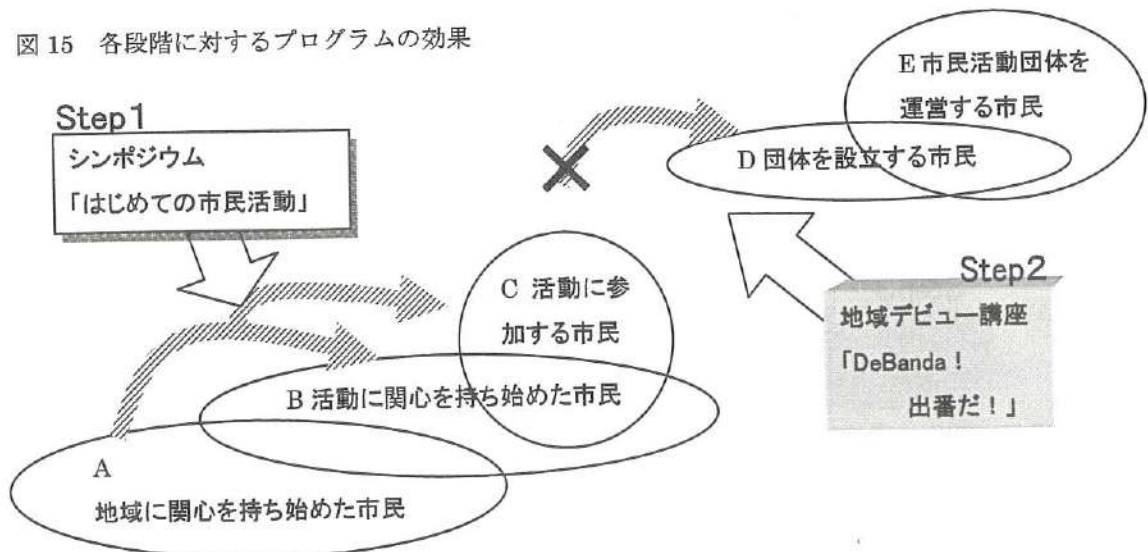
①地域課題解決に向けて自ら取り組もうとする市民の掘り起こしと育成プログラムの必要性

p4で想定した、市民と「ボランティア活動・地域活動」との5類型を再掲する。

- A 「地域に関心を持ち始めた市民」
- B 「活動に関心を持ち始めた市民」
- C 「活動へ参加する市民」
- D 「活動団体を設立する市民」
- E 「市民活動団体を運営する市民」

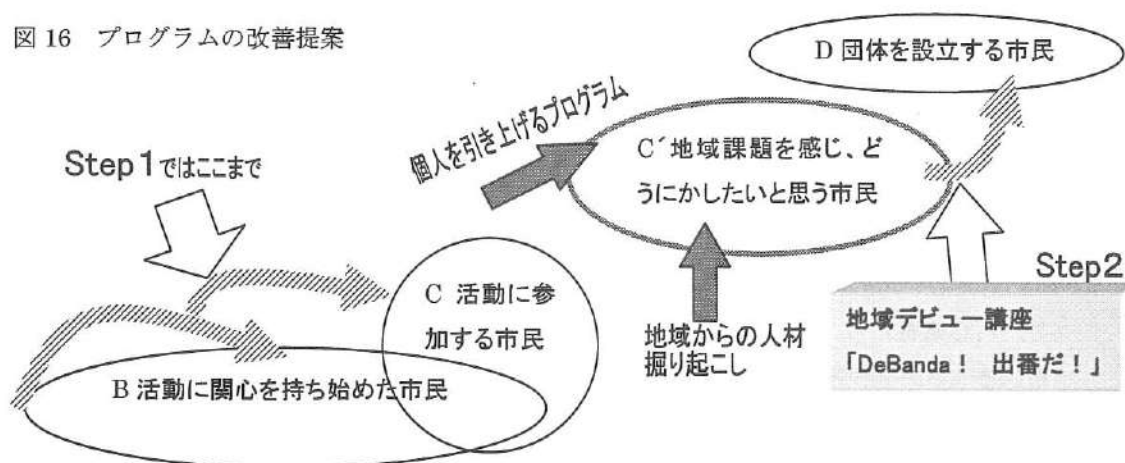
今回、Step 1では、A 地域に関心を持ち始めた市民を、B や C へ引き上げることをねらいとし、効果はあったと考える。次の Step 2は、B、C から D への引き上げをねらいとしたが、Step 1 を通った人の参加は全くなかった。そのことをふまえ今後の課題を挙げる。

図 15 各段階に対するプログラムの効果



3章の(5)・3で浮かび上がってきた、DeBanda 講座の対象者は、「明確に表現できなくても地域課題を身近な問題として感じて何とかしたいと思っている人」で「C活動に参加する市民」＝「D 団体を設立する市民」であった。C活動に参加する市民から、D 団体を設立する市民に移行するステップの間に入る市民の型として「地域課題に向けて取り組もうとする市民」を設定し、C'とした。個人の育成、つまり、BやCから、地域課題解決に向けて自ら取り組もうとする市民(C')に引き上げるプログラムと、C'の市民を、地域から掘り起こすしくみを、設定する必要がある(図16)。

図16 プログラムの改善提案



②講座生の相互フォローアップ

DeBanda 2期生の事例から、緩やかなネットワークは、継続的な活動への意欲を減退させないことも効果のひとつであることがわかった。2期生のときは、核となる人物がいて、同窓会が機能したが、今回はその核となる人を作ることができなかった。講座生が同窓会をする意欲を生み出す設定を、プログラムに組み込む必要があるだろう。

③受け皿である地域ネットワークづくりの課題

設定では、異業種懇談会や青年会議所なども巻き込む予定だったが、事業の参加者が、異業種懇談会のメンバーとして参加するところまでは、残念ながら、進んでいくことはなかった。ただ、これまでの、私たちが継続している一連のプログラムの参加者の中には、異業種懇談会に参加している退職者も数名いるので、もう少し、時間をかければ、こういった成果が出ることは、充分に予見できる。

退職者が自分に合った活躍の場を見出すために、仕掛ける側が用意すべきものがあるはずだ。地域との連携によるコミュニティ・ワーカーの受け皿作りは、その要素を洗い出すことで充実するはずである。

第4章 学習システムの提案

前章の課題をふまえ、今回の学習システムの改善点をあげ、「社会経験豊かな民間企業等の退職（予定）者が、自分の持っている資源を最大限に活かすことのできる場や仲間を得、地域で活躍することを目的としたまちづくりの担い手（コミュニティワーカー）を育成する学習システム」を提案する。

1. 学習システムの概要

(1) 目的

民間企業等退職者の社会的関わりと意欲を活かし、彼らが地域社会やそこに住む人々と継続して関わり地域の構成員となるための導入プログラムを用意し、地域社会の支え手（コミュニティワーカー）として退職者が新たなステージを得て、自身が持つ社会的資源を活かし、地域の教育力の再生支援をつなぐ創造的循環を創り出すことを目的とする。

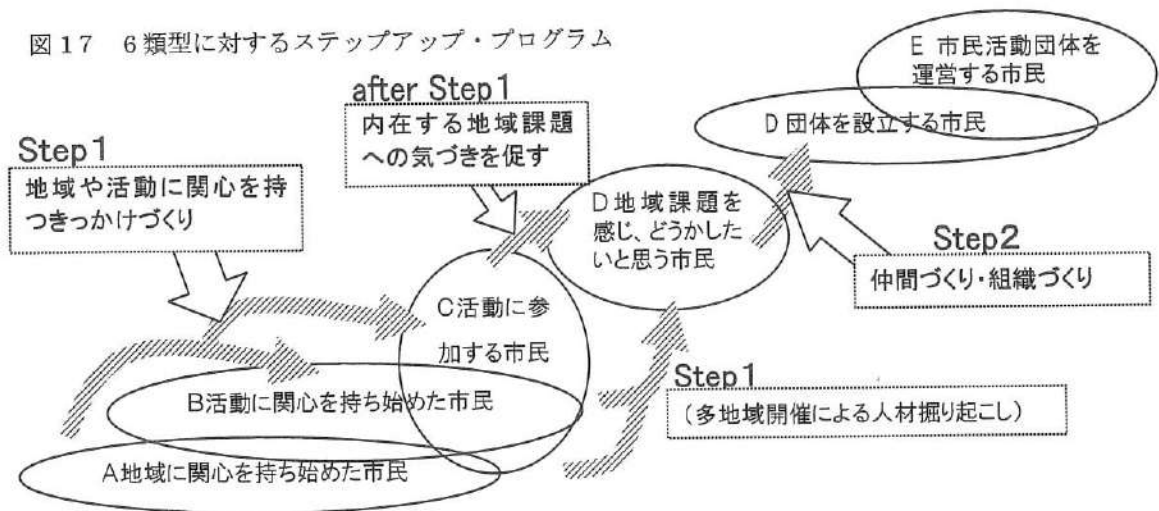
(2) 内容概要

市民と「ボランティア活動・地域活動」との関係を6段階に類型化し、それぞれの段階に応じた、かつステップアップするプログラムを用意し、コミュニティワーカーになるまでを支援する。それと合わせて、多数の入り口をもつ複合的なプログラム構成で、人の循環と交流を生み出す受け皿づくりを行う。

【市民と「ボランティア・地域活動」との関係6類型】

- A 「地域に関心を持ち始めた市民」
- B 「活動に関心を持ち始めた市民」
- C 「活動へ参加する市民」
- D 「地域課題を感じ、どうかしたいと思う市民」
- E 「活動団体を設立する市民」
- F 「市民活動団体を運営する市民」

図17 6類型に対するステップアップ・プログラム



Step 1 地域や活動に関心を持つきっかけづくり — 「はじめての市民活動」

【内容】退職後に何をするか模索している人や地域に興味を持ち始めた人向けの門戸の広い講演会。ボランティア活動認知のための基調講演と、身近な地域課題解決事例団体や人の紹介。多地域で行うことにより、人材の掘り起こしも図る。

after Step1 地域課題の掘り起こし

自分自身に内在する地域課題への意識を掘り起こすプログラムを実施する。

Step 2 仲間づくり・組織作り—地域デビュー講座「DeBanda！ 出番だ！」

【内容】地域課題解決したい市民が活動立ち上げの企画をつくらるところまでを支援し、最終発表会で、地域で活躍する先輩や企業、町会など多様な主体を呼びマッチングを行い、次の活動へつなげる。また、商工会議所と通して、企業との協働で社会力育成やコミュニティ・ビジネスの視点も講座に盛り込む。同窓会のセッティングをカリキュラムに組み込み、緩やかなネットワーク形成を目指す。

Step 3 地域デビューと地域のネットワークに参加—「NPO・市民活動見本市」

【内容】DeBanda 講座生の企画発表の場、地域ネットワークへの参加の場。さらに、NPO や他主体との協働事業企画コンペにおいて、大学や地域の NPO 団体や企業、異業種交流会、町会・自治会など、多様な立場の人の参加・参画を促す。より多くの市民のニーズに合った学びと参加のきっかけづくりを設定する。

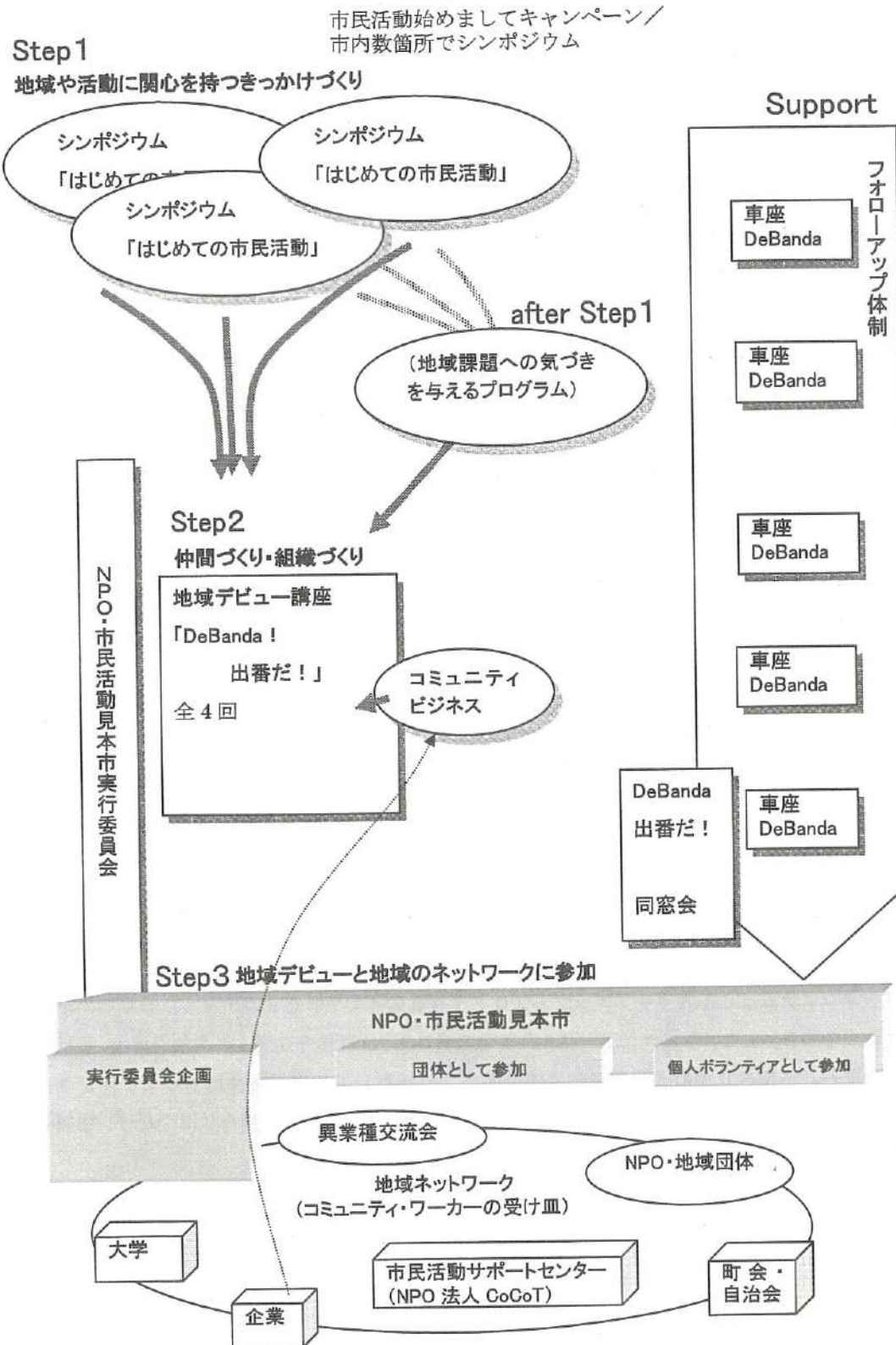
Support フォローアップ体制—「車座 DeBanda」／「DeBanda！ 出番だ！」の同窓会

【内容】車座 DeBanda は、情報を収集発信し、交流することを目的としたテーマ型サロンの開催。夜間で、退職予定者も来やすい環境で行う。様々な立場の人を集めることにより、知り合うきっかけづくりの場とする。また、各ステップで興味を持ち始めた人が、次のステップのつなぎとして、そこに行けば常に、地域活動をしている人々に出会える、情報交換できる場とする。同窓会は、情報交換や助け合いの緩やかなネットワークづくりを行う。

以上本システムは、各ステップアップ・プログラムによって、コミュニティ・ワーカーの段階的な育成を図る。また、各プログラムに、大学や地域の NPO 団体や企業、異業種交流会、町会・自治会など、多様な立場の人の参加や参画を促すツールとしての機能を持たせることにより、様々な市民の循環と交流を生み出し、コミュニティ・ワーカーの受け皿づくりにつなげ、地域の教育力再生支援を目指す。

(4) 提案システムの概念図を表す (図 18)。

図 18 民間企業等の退職者が地域で活躍するための学習システム開発（提案）のスキーム



資料編目次

1. サポセンニュース 3 号 (地域デビュー講座案内号) p.47
2. サポセンニュース 4 号 (9/24 講演報告、講座案内、修了生の声) . . . p.49
3. 車座 DeBanda 1 月、2 月ちらし p.51
4. 見本市ちらし表(ポスターと同デザイン) p.52
5. 見本市ちらし裏(各団体出展内容) p.53

まつど市民活動サポートセンター



News letter

そぞくさど

第3号

2007年9月18日発行



『市民の自発的で継続的な活動を支援する場』『いつでも気軽に立ち寄れて、市民が運営を支えるみんなの広場』
『市民・活動団体・行政のパートナーシップに基づく協働を推進する場』

編集・発行：まつど市民活動サポートセンター指定管理者 NPO 法人 CoCoT

この秋、市民活動サポートセンターがお届けする主催講座

文部科学省「生涯学習分野における
NPO 支援事業」受託事業

3つのステップで、地域デビュー！



スーパー DeBanda

ステップ 1

シンポジウム はじめての市民活動

— 粹な松戸で腕まくり！ —

DeBanda?



9月24日(月)13:30~

会場 女性センターゆうまつど ホール

シンポジウム「はじめての市民活動」では、講演とパネルディスカッションの二本立て。

市民活動の始めかた、市内で活躍する市民活動団体・NPOの活動を知ることができます

地域デビューはまずはここから！そう、DeBanda！あなたの出番だ！

13:30~15:20 第一部 講演会「マザーテレサに学ぶ地域デビュー」

講師：枝見 太郎 氏（財団法人 富士福祉事業団理事長）

15:30~16:30 第二部 パネルディスカッション「粹な松戸はこう創る！」

【パネリスト】松戸市で市民活動に活躍中の四人衆！

泉 河津子 氏（ともだち・つくろう代表）

鎌形 武久 氏（スーパー紙とんぼの会 代表）

友山 邦夫 氏（NPO 法人人材パワーアップセンター にこにこクラブ）

渡辺 洋子 氏（NPO 法人松戸子ども劇場 元理事長）

ステップ 1

で自分が地域で生きる元気をもらったら…

ステップ 2

ステップ 3

に、GO！（裏に続く）

まつど市民活動サポートセンター Access Data（公共機関で）常磐・新京成線 松戸駅西口 京成バスのりば3番 市川駅行 浅間台バス停目の前
（郵便で）〒271-0094 松戸市 上矢切 299-1（電話で）TEL 047-365-5522 FAX 047-365-5636 予約専用 047-365-5588
（パソコンで）E-mail hai_saposen@matsudo-sc.com URL <http://www.matsudo-sc.com>
（開いているのは）閉館日 月～土曜日 9:00～21:00 日曜日 9:00～17:00 休館日 毎月 第1、3水曜日、年末年始 12/29～1/3

ステップ 2

地域デビュー講座(全4回)



DeBanda! 出番だ!

地域で活躍したい、だけど何から始めようか迷っている、こんなことしたいけど具体的にどのようにおすすめたらいいかわからない。でも大丈夫!この講座で力をつけて、**あなたの出番だ!**

日にち	時間とテーマ	内容
11/5(月)	9:30~12:30 人生の棚卸 講師: 森良氏 NPO 法人エココミュニケーションセンター	自分を活かしてやりたいことを考えよう これからのいい人生を歩む自分を想像しよう
11/12(月)	10:00~12:00 NPO を知ろう 講師: 犬塚裕雅氏 NPO 法人 CoCoT	NPO ってなに? 松戸の NPO 事情
	13:00~15:00 先輩に聴く! 講師: 小山淳子氏 NPO 法人 CoCoT	DeBanda 修了生に聴く! 地域の達人からヒントをもらおう
11/19(月)	9:30~12:30 自分の思いをカタチにしよう 講師: 森良氏 NPO 法人エココミュニケーションセンター	対象は?ねらいは?実際何をやるの? 思いを具体化してカタチにしていきます
12/3(月)	9:30~12:30 自分を地域にアピール 講師: 森良氏 NPO 法人エココミュニケーションセンター	既に活動している NPO や、関連団体の前で企画を発表。 思いを実際の活動につなげます

ステップ 2

で、仲間を見つけ、やりたいことがカタチになってきたら...



ステップ 3

選べる! 見て 聞いて 第5回 NPO・市民活動見本市

毎年3月上旬、サポートセンターで行なわれる、50団体余が一堂に会して自分たちの活動をアピールする場です。今までは見る側だったけれど今度は、あなたがアピールする番。これで、地域デビュー完了!
現在、実行委員会が立ち上がり、新しい催しに向けて企画を練り上げているところです。お楽しみに♪

交流サロン 車座DeBanda

9月26日(水) 19:00~20:30 女性センター

アジアの最貧困層の子どもたちを支援している団体に活動をお話していただきます。現地の子どもたちの職業訓練、刺繍コンテストを行って、フェアトレード(途上国の製品にきちんと対価を与える、公正な貿易)につなげていくことをすすめている団体です。

10月24日(水)19:00~20:30 女性センター

パパの子育てについて話したい人はお越しください。読み聞かせはどうしてる?おやじの会ってきいたことあるけど、何してるの?かつての子育て層も大歓迎!

11月28日(水)19:00~20:30 女性センター

松戸でどこまで生ごみ堆肥化システムを展開できるか話し合ってみよう。みんなはどうしてる?堆肥で作った野菜って本当に安全でおいしいの?農家のかたもお待ちしています。

スタッフからひとこと

今回ご紹介した(ステップ2)の「DeBanda! 出番だ!講座」は、年一回当センター主催で行なってきた地域デビュー講座です。回を重ね今年で4回目。講座修了生は、独自で会を立ち上げたり、既存のNPOに入って活躍したりとそれぞれ。また、じっくりと4回かけて自分たちの思いを語り合う中で、ゆるやかな絆も生まれます。その年毎に講座修了生のつながりかたが違うのも、この講座が各自の想いを大事にしていることによるのかもしれない。

今年は、入門編として「はじめての市民活動」という講演会を事前に設けました。多くの人に市民活動を知ってもらい、一人ひとりが動くことで変わる世の中があることがイメージできれば、と思います。そして自分が何かしたいと思ったら、サポートセンターへGO! お待ちしています。

(山崎)

まつど市民活動サポートセンター



News letter

秋重る

第4号

2007年10月18日 発行

『市民の自発的で継続的な活動を支援する場』『いつでも気軽に立ち寄れて、市民が運営を支えるみんなの広場』
『市民・活動団体・行政のパートナーシップに基づく協働を推進する場』

編集・発行：まつど市民活動サポートセンター指定管理者 NPO 法人 CoCoT

出版局 出版局 スーパーDeBandai

満員御礼!

シンポジウム「はじめての市民活動」

2007年9月24日(月・祝)にシンポジウム「はじめての市民活動」を女性センターゆうまつで開催しました。これから地域で何かやってみたいと思っている方や、すでに地域で活躍されている方など様々な方が参加されました。



講師の枝見太郎氏

〈第1部〉13時30分～15時20分
講演会「マザーテレサに学ぶ地域づくり」
講師 枝見太郎氏
(財団法人富士福祉事業団理事長)

聴衆は熱気あふれる市民や団体の人数40名。講師の枝見さんはマザーテレサが在命中、マザーテレサの業績を日本に紹介したスポンクスマンとして、日本では草分け的な存在。

マザーテレサとの運命的な出会いの話、追いかけるように映画製作のスタッフとして強引にマザーの近くで仕事をやるようになった経過、そしてマザーの人物に触れているうちに自分の中に生まれたいこと、変わったことなど、思わず引き



込まれる導入に始まり、ポランテアというものが市民の間でどんな風に捉えられているか、安易な気持ちでポランテアに携わるとたいい続かない、という事例を面白おかしく話されました。ポランテア活動というものは、見返りを求めない奉仕の気持ちが必要だ、という原則を皮切りに「NPOや市民活動が、行政の下請けになつてはならない。」「自らの意思により、何者にも束縛されることなく、見返りを求めず、社会のため、法よりも先んじて、自ら行うというのがNPOや市民活動の使命である」と熱く語られました。アンケートの感想も「予想したよりずっと面白かった」「最後まで引き込まれてしまった」など、大好評でした。

〈第2部〉15時30分～16時30分
パネルディスカッション
「絆なまごとは、こう創る!」
パネリスト

・泉河津子氏 (ともだち・つくりう代表)

子育てサロンを立ち上げ、地域に根ざした子育て支援の場を作り運営している。
・鎌形武久氏 (スーパー紙トポの会代表)

紙パックなどの材料で誰でも楽しめる紙とんぼを考案。地域と子どもを結ぶ媒体として注目され講座依頼多数。

・友山邦夫氏

(NPO法人人材パワーアップセンターにヒキクラ) 美味しいお茶は人と人を結ぶコミュニケーションツール。リラクセスできる交流の場を仲間と開催。

・渡辺洋子氏 (NPO法人松戸子ども劇場 元理事長)

子ども劇場で子育て支援事業に関わった中から、地域に根ざした低年齢の子育て支援活動を立ち上げ支援している。



パネリストの皆さんと枝見さん

4人のパネリストと、コメンテーター枝見さんで、約1時間。自己紹介の後、今の活動をされているきっかけを話していただきました。子育てに必要性を感じてサロンや居場所づくりをはじめた、子ども達に紙とんぼが喜ばれる事がうれしくてはまった、とにかくモノづくりやお茶の深さが「好き」で楽しいから、など。地域デビューを果たそうとする方々には、身近なところも共感を呼ぶものでした。

〈第3部〉交流タイム

団体のアピールをするために来られた方々、地域で何かはじめるようと考えている方々、4人のパネリスト、講師の枝見さんも交えた交流タイムを行いました。

自己紹介の簡単なシートを記入して、首からかけていただき、交流のフリータイム開始。あつという間に部屋のおちらこちらでにぎやかな声が上ががり、どんな雰囲気になるだろうと気をもんだスタッフの心配をよそに、おのおの話したい相手を見つけて、とても賑やかな楽しい時間を過ごしました。

(桑田)

まつど市民活動サポートセンター Access Data (公共機関で) 常磐・新京成線松戸駅西口 京成バスのりば3番 市川駅行 浅間台バス停目の前
(郵便で) 〒271-0094 松戸市 上矢切 299-1 (電話で) TEL 047-365-5522 FAX 047-365-5636 予約専用 047-365-5588
(パソコンで) E-mail hai_saposen@matsudo-sc.com URL http://www.matsudo-sc.com
(開いているのは) 開館日 月～土曜日 9:00～21:00 日曜日 9:00～17:00 休館日 毎月 第1、3水曜日、年末年始 12/29～1/3



その後のDeBandaたち

地域で活躍したい！何かやってみたい！けど具体的にどのようにすすめていけばいいかわからない方などを対象に地域デビュー講座「DeBanda！出番だ！」を毎年開催しています。今回はこれまでの卒業生や講師の方に貴重なコメントをいただきました！

驚くほどスムーズに道が開けていった

DeBanda3期生 Kさん

認知症の伯母の介護がきっかけで、認知症を予防することの大切さを知り、介護予防に関する資格を取得したので、それらを生かして高齢者向けに何かが出来ないか...？という思いから、まつど市民活動サポートセンターに相談したことがきっかけで、「自分の思いを形にする・出番だ講座」を紹介して頂き参加したのです。

たくさんの考えで頭でっかちになっていた自分を冷静に振り返るところから始まり、他の人の前で説明したり質問を受けながら講座が進むうちに、今まで見えなかった事が見えてきたり、改めて発見することなどがたくさんありました。それらをコーディネーターの方が手取り足取りフォローして下さいました。また、自分の活動に関係する方々を多く紹介していただいたおかげで、終了後は驚くほどスムーズに道が開けていきました。一人であれこれ悩んでいても限界があると思います。「思いを形にする」には出番だ講座で一から整理して確実に進めていくことが成功への一番の近道だと思います！

現在は、高齢者の方と週一回、体操や脳トレ・趣味教室・おしゃべり会などを行う「介護予防塾・いきいき広場」を開いて楽しく活動しています。



誰かの為に何かしたい、そんな思いでみんなが繋がっている

DeBanda2期生 Sさん

現在、子育て中のお母さんの手料理を応援するために、料理教室「イージーキッチン」を行なっています。

全出席はできなかったものの、受講した事ですべき方向性がはっきりし、とうとう活動が始まりました。DeBanda 2期のメンバーは、自発的にチラシを配布してくれたり、受付や保育等の手伝いをしてくれたり、様々な助言をしてくれたりと、一人で心細い私に協力してくださいました。これは私だけではなくみんながお互いにそうなのです。2期生の素敵な特徴でしょう。誰かの為に何かしたい、そんな思いでみんなが繋がっています。講座に参加して、メンバーに出会い、今の私の活動があります。

DeBanda講師の声

「自己実現こそ社会参加」

森 良さん(NPO 法人エコ・コミュニケーションセンター代表)人は自分のやりたいことをやって生き生きとしてこそ他人(社会)のために働ける、言いかえれば「自己実現こそ社会参加」というのがわたしのポリシーです。そんな思いの方はぜひ来て下さい。サポートします。

ウォーキングしていて気が付いたことが始まり

DeBanda2期生 Oさん

私は会社をリタイアして、毎日自由な時間が取れるようになりました。しかしながら、私の場合今迄に地域活動というものに一度も経験なくどのように地域社会に入っていけばいいのかわからない、何の知識もありません。まして趣味を通してサークル活動を始める人がいると聞きましたが、これといった趣味も技術もなくしばらくは何の活動もしていませんでした。

松戸市の広報誌でDeBandaの講習があると知り、何らかのキッカケがつかめるのではないかと受講いたしました。

私は健康上の問題から毎食後ウォーキングを日課として毎日家の近所を歩いております。そこで気が付いたことがありました。自分が歩いているコースにゴミ、吸殻が捨てられ放置されていたことです。講座のテーマも「散歩道をきれいにしよう」と決めたのです。同じようなテーマをあげた人達とメンバーを組み実社会にどのように対応したらいいのか話し合い、アドバイスを受けました。講習の中で先輩の活動を紹介する時間があり、本土寺の沿道を清掃活動していることを知りました。メンバーから活動場所が自宅の近いところなので参加したらいいのではないかと背中を押され、毎週土曜日の朝、沿道の清掃をやることになりました。

これがキッカケとなり、この清掃が「NPO 法人さわやか福祉の会・松戸くらしの助っ人」という福祉ボランティア活動団体が関わっていることがわかり、しばらくしてボランティアを手伝ってくれないか？仕事内容は自分の車で利用者を目的地まで送迎するというものであります。福祉のボランティア活動というのはどのような活動をするのか経験したく、現在会員として登録し活動を続け、1年ぐらい前から事務所に入りお手伝いをしております。

DeBandaの講習をキッカケに、地域活動の中が広がっていくのが今の現状であります。

11/5スタート！受講生募集中！！

DeBanda！出番だ！

地域で活躍したい！やりたいことがある！...など思いはあっても活動をスタートできていない皆さんの思いを引き出し、カタチにするまでをお手伝いします。

〈地域デビュー講座(全4回)〉

11/5(月) 9:30~12:30 人生の棚卸

11/12(月) 10:00~12:00 NPOを知ろう

13:00~15:00 先輩に聴く！

11/19(月) 9:30~12:30 自分の思いをカタチにしよう

12/3(月) 9:30~12:30 自分を地域にアピール

【場所】まつど市民活動サポートセンター

【参加費】無料(ただしテキスト代実費) 【定員】30名

【申し込み方法】電話かFAXでサポートセンターまで

TEL 047-365-5522 FAX 047-365-5636

ホームレス問題を 考える

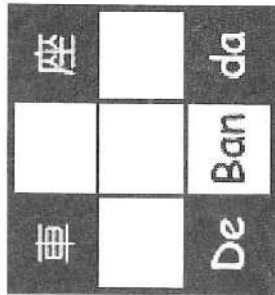


Presented by
まつど市民活動サポートセンター
第一

1月23日(水)

19:00~20:30

なんとなく目を背けてしまいがちな「ホームレス」という存在。松戸市内にもたごさんの人たちが路上や公園で生活をしています。ホームレス問題を松戸市の地域課題として捉え向かい合うためにお互いにわたしたちができることを話し合います。



【場所】女性センターゆうまつど

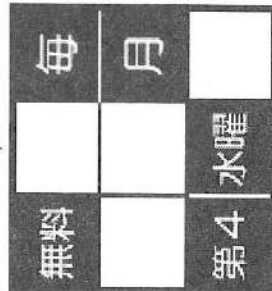
【対象】テーマに興味のある方ならどなたでも。

【申込】できればお電話でご連絡ください。当日直接会場にお越しください。おっけいごうです。

… 車座DeBandaとは？

地域を責めるのは私たちだ！
車座DeBandaでは毎月1つテーマを設け、参加者同士でそれぞれの思いや考えを語り合います。

主催：まつど市民活動サポートセンター
住所：松戸市上矢切299-1
電話：047-365-5522



NPOに興味がある人たちのための交流サロン

学校と連携した 地域づくり



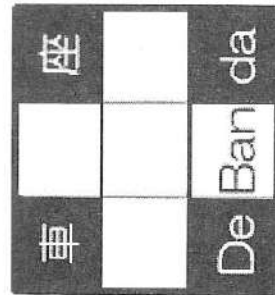
Presented by
まつど市民活動サポートセンター

2月27日(水)

19:00~20:30

住民が主体となった地域づくりを考えるときに、異年齢や異世代交流といったテーマが必ず出てきます。

今回は、異世代のうち「子ども」に着目し、子どもが集う場としての「学校」と連携した地域づくりについて考えたいと思います。



【場所】女性センターゆうまつど

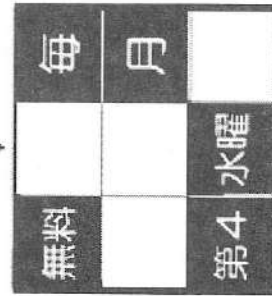
【対象】テーマに興味のある方ならどなたでも。

【申込】できればお電話でご連絡ください。当日直接会場にお越しください。おっけいごうです。

… 車座DeBandaとは？

地域を責めるのは私たちだ！
車座DeBandaでは毎月1つテーマを設け、参加者同士でそれぞれの思いや考えを語り合います。

主催：まつど市民活動サポートセンター
住所：松戸市上矢切299-1
電話：047-365-5522



■タイムスケジュール ※記載番号が、会場マップと参加団体の番号になっています
5つの会場で、楽しいパフォーマンスなどが同時進行!! 見逃さないでね!

時分	多目的ホール(中央)	大会議室・A	大会議室・B	第1第2ボランティア室	公民館
10:00	開会セレモニー				
10:10	ウクレレ演奏 ⑤		読み語り ④ (N)こどもの情報を育てるMKE協会 10:30~11:35 「できるかな?あたまからつまさきまで」 「みにくいあひるの子」ほか	勉強会 ⑥ 「日本弁護士連合会による富良野について」 松戸市に夜間中学校をつくる市民の会	
10:20	詩遊(詩吟) ③	健康ミニ講習 ④ ほんもの健康普及会		10:30~12:00	音楽会 ⑤ アルトの会
10:40	元気に遊ぼう子どもたち ④	11:00~12:00 足つば実践ミニ講座	おはなし ④ おはなしの玉手箱		11:00~12:00
11:00	飛ばそう紙トンボ ②				
11:10	ゴミ減らし音頭を踊りましょう ⑤			映画上映 ③ 「107+1〜天国はつくるもの〜」 動けば変わる会(有料)	
11:20	保険の話あれこれ ④			12:30~15:00 すべてはやるか やらないか あきらめるか あきらめないか 天国をつくろうとした downstream たちの真実の物語(ドキュメンタリー)。 死んでから天国にいて幸せになってもしょうがない。生きている現在(いま)を天国にしてみましょう!	
11:30	ローンボール実演・体験 ②				語り ④ (N)こどもの情報を育てるMKE協会 12:00~13:00 「長ーい長ーい名の子ども」 「だんごどっこいしょ」ほか 子どもたちの歌 (子どもたちが歌います) 「番よ求い」 「ひなまつり」ほか
11:40	休憩タイム				
11:50	飛び入りタイム				
12:00		山崎 富一氏 講演 「笑顔で市民参加のまちづくり」 13:00~13:50 市民参加になって「ほんでもかっ!」「これほんでもかっ!」と 思える現場をつくって、地域の声を聞き出す活動の事例を交えながら お話ししていきます。これから地域で活動するにあたりのお話を紹介します。			
12:10					
12:20					
12:30					
12:40					
12:50					
13:00					
13:10					
13:20					
13:30					
13:40					
13:50					
14:00					
14:10					
14:20					
14:30					
14:40					
14:50					
15:00					
15:10					
15:20					
15:30					
15:40					
15:50					
16:00					
16:10					
16:20					
16:30					
16:40					
16:50					
17:00					
17:10					
17:20					
17:30					
17:40					
17:50					
18:00					

楽しい!
子ども向けの工作や読み語りもあります親子で楽しめますよ!

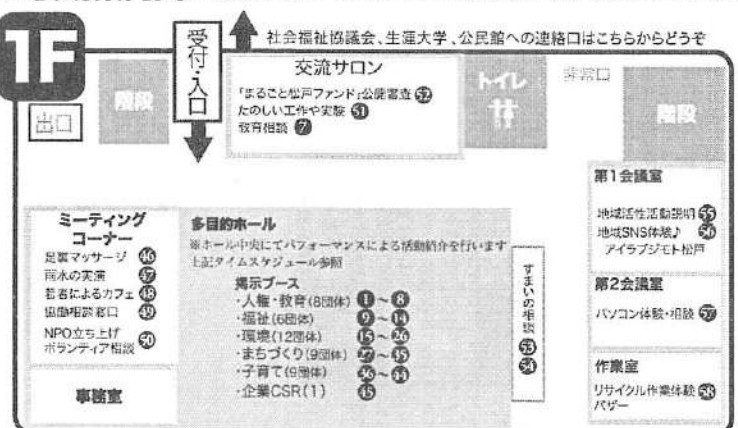


うれしい!
すてきなカフェ、音楽家の演奏や健康に関するイベントも体験できる!

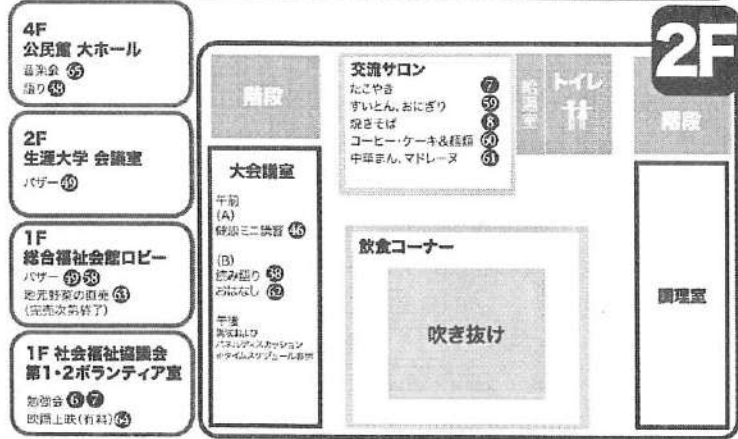


たくさん!
今年は65団体が参加しています!ぜひ見に来てくださいね!

■会場案内図 ※記載番号が、会場マップと参加団体の番号になっています



- 出展団体一覧**
- ① (社)倫理研究所家庭倫理の会
 - ② (N)被害者加害者対話の会
 - ③ (N)外国人の子どものための勉強会
 - ④ 松戸市消費者の会
 - ⑤ (N)フレンドスペース
 - ⑥ 茨山事件にとりくむ東馬住長会の会
 - ⑦ 松戸市に夜間中学校をつくる市民の会
 - ⑧ 不登校問題を考える東馬の会
 - ⑨ まつどローンボウズ愛好会「わわわの会」
 - ⑩ ハートフルまつど
 - ⑪ (N)JPUC地域の福祉力底上げ隊
 - ⑫ デファイターズの会
 - ⑬ (N)車椅子レクダグンス松戸支部
 - ⑭ (N)ふれあいネットまつど
 - ⑮ メイク松戸ピューティフル
 - ⑯ 松戸ケアの会
 - ⑰ アースコン・まつど
 - ⑱ (N)せげんの街 松戸連登委員会
 - ⑲ 松戸CONNECT
 - ⑳ 環境教育を進める会
 - ㉑ 関さんの森を育む会
 - ㉒ 生ごみ資源化を考える会
 - ㉓ まつど地球市長かいぎ
 - ㉔ 松戸環境ネットワーク
 - ㉕ ちば環境再生農具の会
 - ㉖ エコメットin2008ちば実行委員会・松戸
 - ㉗ スーパー紙とんぼの会
 - ㉘ (N)松戸エコマナー「アウル」の会
 - ㉙ 矢野なぎばつづきの会
 - ㉚ (N)まちづくりNPOセラガ
 - ㉛ (N)JPUC 絵手紙教室
 - ㉜ (N)JPUC わくわく楽しむ会
 - ㉝ (N)JPUC いこいの場つくり隊
 - ㉞ 松戸市陶芸クラブ
 - ㉟ 松戸まちづくり交流室テント小屋
 - ㊱ Jキッズ
 - ㊲ (N)子育てひろばほほほ
 - ㊳ (N)こどもの情報を育てるMKE協会
 - ㊴ (N)子育て支援ほら
 - ㊵ (N)松戸子ども劇場
 - ㊶ (N)松戸子育てさばーとハーモニー
 - ㊷ 松戸子どもの文化連絡会
 - ㊸ まつど子育て・孫育てガイドブック
 - ㊹ 小糸おそびほの会
 - ㊺ 京葉ガス社会貢献活動チーム
 - ㊻ ほんもの健康普及会足がる隊
 - ㊼ (N)JPUC住まいのミニミニお助け隊
 - ㊽ MICS Net
 - ㊾ 松戸市協働推進課
 - ㊿ まつど市民活動サポートセンター
 - ① たのたのじゅく
 - ② (N)CoCoT
 - ③ すまいるの応援団
 - ④ (N)雑貨Gメンの会
 - ⑤ まつど販路サポート資源提供システム創る会
 - ⑥ 松戸地域活性隊「チームラマツ」
 - ⑦ ぼんごん119
 - ⑧ つかいまわし工房
 - ⑨ (N)いほの会
 - ⑩ (N)松戸ゆいねっと
 - ⑪ ぶどうのいえ
 - ⑫ おはなしの玉手箱
 - ⑬ みゆ☆ファミリー
 - ⑭ 動けば変わる会
 - ⑮ アルトの会
- ※(N)はNPO法人、(社)は社団法人
JPUCは人材パワーアップセンターの略



NPO・市民活動って?

営利を目的とせず、住みよいまちをつくるために、ひとりひとりが自発的に動くことをいいます。

皆さんの活動を支え、応援するのが、**まつど市民活動サポートセンター**です。

ボランティアしたい、何か役に立つことがしたい、どんな活動があるの? いろんな街にしたい

こんな思いにピンときたら
まつど市民活動サポートセンターへ!



文部科学省 生涯学習分野におけるNPO支援事業

**民間企業等の退職者が地域で活躍するための
学習システムの開発
報告書**

発行 特定非営利活動法人コミュニティ・コーディネーターズ・タンク
(通称：CoCoT)

【連絡先】

〒271-0077 千葉県松戸市根本 452 篠崎建物 404 号室
TEL 047-366-8909 FAX 047-369-7445
E-mail contact@npo-cocot.com
Url <http://npo-cocot.com/>

平成 20 年 3 月発行